

平成 30（2018）年度
商店街創生支援プロジェクト事業
（協同組合東舞鶴商店街連盟）
報告書

平成 31（2019）年 3 月

特定非営利活動法人MCA

目次

第1章 商店街創生支援プロジェクト事業について.....	2
1. 概要.....	2
2. 「商店街創生プラン」について.....	2
3. スケジュール.....	3
第2章 2018年度事業の実施状況.....	4
1. 担い手の確保・育成に向けた取り組み～まちづくり会社の検討～.....	4
2. 現在取り組む観光等でのサービスの充実.....	6
3. 個店の活性化と住民サービスの向上.....	21
4. 新たな事業モデルの検討.....	23
5. ハード整備の方向性の検討.....	29
第3章 本プロジェクトの成果（2015～2018年度）と今後に向けて.....	32
1. 概略.....	32
2. 主な経過.....	34
3. 事業の実施状況.....	41
4. 今後に向けて.....	60
参考資料（2018年度委員会の記録）.....	71
第1回委員会.....	71
第2回委員会.....	72
第3回委員会.....	75
第4回委員会.....	79
第5回委員会.....	80
第6回委員会.....	81

第1章 商店街創生支援プロジェクト事業について

1. 概要

(1) 趣旨

京都府内商店街のうち、商店街が有する特性や歴史等を踏まえて商店街自らが設定した重点テーマに対し、活性化モデルを創出できる可能性がある商店街として、先に公募し選定した商店街（「創生商店街」）において、民間企業やソーシャルビジネス団体、特定非営利活動法人など外部の力を導入しながら、「商店街創生プラン」の策定やプランに基づく事業展開など、商店街の振興につながるモデル事業を実施する。

(2) 対象となる創生商店街

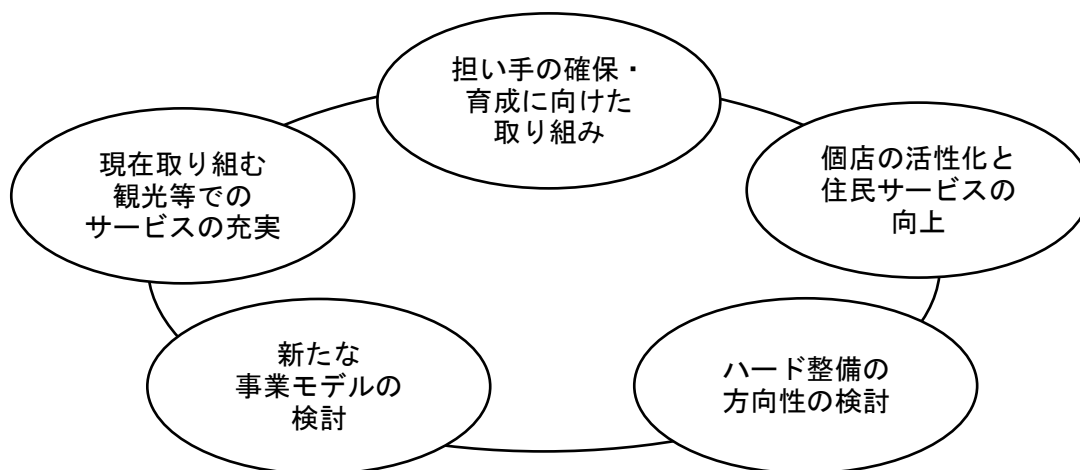
協同組合東舞鶴商店街連盟（舞鶴市）

(3) 重点テーマ

海軍御用達商店街やクルーズ船寄港などの資源を活かし、国内外の観光客を温かいおもてなしで受け入れる、国際観光都市の基盤となる商店街づくりを目指す。

2. 「商店街創生プラン」について

2015年度に実施した「舞鶴国際観光都市商店街化戦略会議」における論議を踏まえ、以下のプランを作成した。



(1) 担い手の確保・育成に向けた取り組み

2015年度に実施された全4回の会議においては、「商店街創生プラン」の策定にむけて様々なアイデアが出されたが、いずれにおいても誰がそれらの事業を担うのかという問題が指摘された。既存事業者、新規参入者など多様な担い手を想定することができるが、人材確保・育成にむけて、具体的な取り組みを行っていく。

(2) 現在取り組む観光等でのサービスの充実

赤れんがパークや引揚記念館などへの観光客に加え、「艦隊これくしょん」関連イベントへの参加者が増加している現状を踏まえ、他都市からの来街者を商店街に誘導するための方策を「海軍」をキーワードに展開する。同時に、海外からの観光客・留学生などを見込んだ環境を整備する。

(3) 個店の活性化と住民サービスの向上

商店街に顧客を誘導するためには、魅力的な店舗づくりは欠かせない。観光客など他都市からの来街者に対しては、「海軍」をキーワードにした個々のサービスを拡充していく。住民に対しては、リンクカードの活用を軸とした地域向けサービスの充実を図っていく。

(4) 新たな事業モデルの検討

「商店街創生プラン」を実施していくにあたり、いくつかの事業をモデル的に立ち上げる。この成否を踏まえ、次なる事業展開を検討する。具体的には、民泊・ゲストハウス事業を具体化していく中で、プラン実現に向けての課題等を検証していく。

(5) ハード整備の方向性の検討

舞鶴における集客施設が海沿いに立地する現状を踏まえ、観光客はもちろん地域住民を街中に誘導するためのハード整備のあり方を検討していく。市の関係部局を始め、地域住民の意見を踏まえ、比較的長期のスケジュールで検討を重ねていく。

3. スケジュール

年度	概要
2015年度	<ul style="list-style-type: none">● 「舞鶴国際観光都市商店街化戦略会議」の開催（全4回）● 「商店街創生プラン」の策定
2016～2018年度	「商店街創生プラン」に基づく事業の実施

第2章 2018年度事業の実施状況

1. 担い手の確保・育成に向けた取り組み～まちづくり会社の検討～

(1) まちづくり会社設立の検討

拠点の設置、商店街の賑わいづくり事業など、これまでの成果を活かし、商店街を核とするエリア一帯の社会課題解決や商業活性化を進めるため、まちづくり会社設立を検討してきた。

京都府からもCMOの利用提案など頂いており、関係者間で情報の共有を図っている。今後は、具体的なスケジュール、組織や事業の組み立て等を検討していく必要がある。

【検討中の事項】京都府商店街発「CMO」認証制度について

○京都地域商業再生機構（CMO）認証制度とは

持続可能な新しいコミュニティ再生の仕組構築を推進することを目的に、商店街はもとより自治会、地域住民、支援企業などと連携し、地域ブランドの構築や地域コミュニティの課題解決とともに、観光客の消費を取り込むなど持続的な地域商業の活性化に取り組む活動を行う企業を認証、支援する制度。

Community Management Organization の略。

○対象企業

京都府内において、商店街を核に地域コミュニティの再生を目指す社会的企業

○認証の基準

次の(1)から(4)のいずれも満たしていること。

- (1) 商店街を核に、自治会、地域住民、支援企業等、地域と連携した組織であること。
- (2) 商店街をはじめ地域商業の活性化のほか、地域ブランドの構築や、高齢化問題など地域コミュニティの課題解決等に取り組む組織であること。
- (3) 観光客の消費を取り込むなど、安定的に組織の運営に必要な収益をあげられる組織であること。
- (4) 事業によって得られた利益は、地域に再投資する組織であること。

(2) 共配会社の設立

八島商店街の空きスペースを利用した宅配貨物の共配場（宅配業者の枠を超えた共同配送の仕組み）を作るべく、準備を進めている。

対象エリア：JR 東舞鶴北側 1 条通り～9 条通り

2017 年度の実証実験を踏まえ、今年度は空き店舗を利用した宅配ボックスの設置について研究してきた。

気軽に参加できる副業の仕組みづくりとして、本格実施にむけた体制の整備を進めていく予定である。

(3) 空き店舗対策の推進体制の確立

既存事業者、新規参入者など舞鶴市内外の多様な担い手を想定することが出来る。

商店街組合、地元不動産事業者、建築業者、金融機関、行政等を巻き込み、内外にわかりやすい施策を示せるよう、舞鶴市と推進体制を検討してきた。

引きつづき来年度以降も協議を継続していく予定である。

2. 現在取り組む観光等でのサービスの充実

(1) 「海軍御用達おみやげ館&どこでもギャラリー」の運営

○海軍御用達おみやげ館

本事業は、「にぎわい回復事業」として2018年2月に開設した。商店街内に、お土産アンテナショップを開設し、傘下加盟店からの商品および舞鶴に因んだお土産を一堂に集め販売する拠点を作ることを目的としている。

2019年2月10日に開催された艦これイベントでは16000人の動員実績を上げ、過去最高の参加者数となった。様々な要因が考えられるが、その推進役のひとつとして、「海軍御用達おみやげ館」が大きな役割を担ったといえる。



○どこでもギャラリー

本事業は、「どこでもギャラリー」事業(京都府:京都文化カプロジェクト認証事業)として2018年2月、「海軍御用達おみやげ館」内にリニューアルオープンした。地域の商店街や公共施設等をギャラリーとし、芸術家等の作品を発表する場として活用することで、アートの視点から地域の活性化を図ることを目的としている。

今年度も「海軍御用達お土産館」内において、芸術家の作品発表のギャラリーやキャンパスとして活用した。また、旧海軍秘蔵物展示、軍艦通りアニメキャラクター展示等の活用や、市役所ロビーなどのパブリックスペースの活用の企画提案などを行い、日常生活の中にアートに触れる機会を根付かせるとともに、アートの視点から地域の活性化を図ってきた。

<石原健ペン画作品展>

石原健 ペン画作品展

海上自衛隊草創期 活躍した舞鶴の艦艇



○今後について

今年度は「海軍御用達おみやげ館&どこでもギャラリー」として、東舞鶴商店街連盟が主体となって運営してきた。

2019年度も、京都府「テーマ設定型事業」として引きつづき東商連が主体となり継続することとなっている。一方、同事業終了後も経営を継続させるための安定財源確保が大きな課題となっている。

(2)「産直マート」の運営

八島商店街が主体となって進めてきた事業である。農業・漁業など一次産業との連携強化を目的に、2015年10月にリニューアルオープンした。

今年度は、向かいに「海軍御用達おみやげ館&どこでもギャラリー」が設置されたことに伴い、連携して販売促進に取り組んできた。また、白川町商店街での出張販売をはじめ、他地域との連携による販売体制づくりも進めてきた。

2019年度以降は、WEBでの販売を本格的に開始したいと考えている。



▲舞鶴発祥の万願寺とうがらしを発売

— kyo kohaku —

京琥珀

9月30日 (日曜日)

古川町商店街にて展示即売会

七宝かさね 舞鶴巧芸

はるか500年前、室町時代から日本の美を紡いできた京都西陣。
その雅な西陣織の源流をささえてきたのが、舞鶴市森本町にある、私たち舞鶴巧芸です。
和紙に裁量にも金箔・銀箔や螺鈿などを重ねて貼り合わせていく「七宝かさね」の精緻な技術は、
時代が移り変わっても、舞鶴の地で受け継がれ継々と秘められてきました。
この西陣織の優美な姿を身近に商品化できなかと、試行錯誤して生まれたのが「舞鶴 京琥珀」。
お出かけや旅行などの時に、お酒席に魅せる優雅で大人なデザインのアクセサリーとして最適。
いまモダンな新スタイルデザインで華やかです。

▲古川町商店街での展示即売会

(3) 新規商品の開発

主として「海軍御用達おみやげ館」で販売するお土産として、新規商品の開発を行った。メロンパンラスク、マカデミアナッツクッキー、帝都舞鶴鎮守府史跡地図、艦これイベントで評判の良かった名物料理（万願寺唐辛子ちくわ詰めフライ）などの販売を開始している。

今後は、艦これキャラの著作権を取得し、ご当地キャラとして人気アイテムに育てていきたい。



▲10月に販売を開始したエッセンカントチーニ
(マカダミアナッツクッキー)



▲海軍鎮守府史跡マップ

(4)「海軍ホラーハウス in 舞鶴 ～ロシア病院の謎～」の開催

○実施概要

期 間：6月30日(土) ～8月19日(日)

場 所：東舞鶴三条敷島だるま堂横

主 催：海軍ホラーハウス in 舞鶴実行委員会

事業種類：アトラクション興行(お化け屋敷)

目 的：京都北部のおもてなし観光に対応できる東舞鶴商店街であると
共に、地域の活性化の糸口になる事業として本興行を開催して地域住民のま
ちづくり関心度を上げる事を目的とする。

参加者：2345人

○事業計画

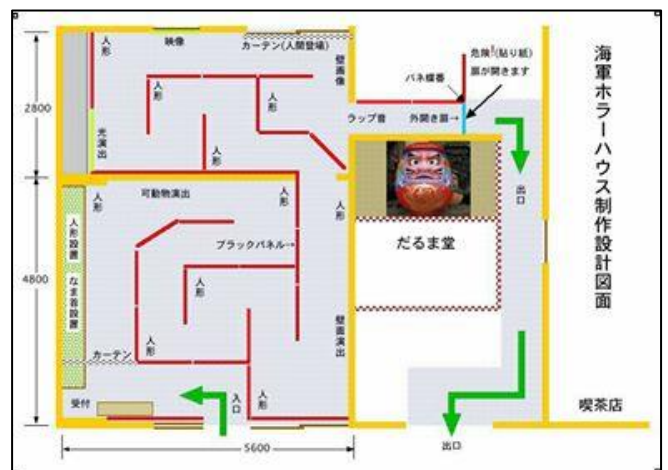
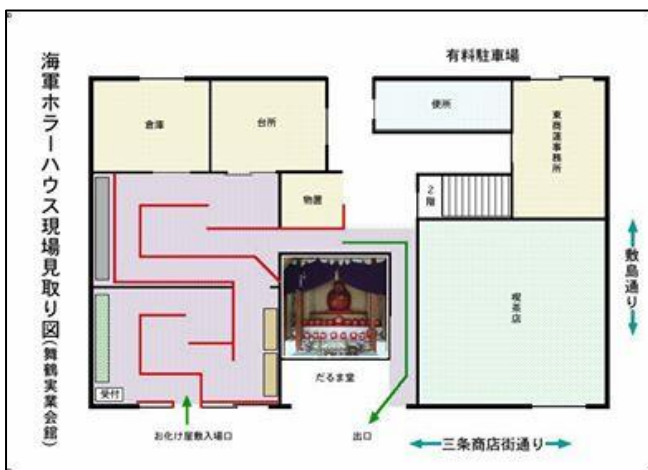
収 益：入館料金 500 円(中学生以下無料・徴収目的～管理人件費)

予 算：1,600,000 円(自己資金、補助金、入館料金)

内 容：海軍ホラーハウス「ロシア病院の謎」のタイトルで企画します。ロシア病院
とはインターネット上で都市伝説として語り継がれている舞鶴市の旧海軍施
設第三火薬廠跡地の事で、日本の立入っては駄目な場所ベスト 10 に選ばれて
います。

この都市伝説をストーリー化した会場演出を東舞鶴商店街の空き店舗を活用
して事業の企画運営を図り、観光集客とは異なる切り口の賑わい事業に発展さ
せませす。

効 果：この商店街ホラーハウス事業は昨年引き続き開催する事業で、昨年実績と
して 2500 人を上回る来場者で賑わいました。とりわけ八島商店街土曜夜の市
の開催時に於いては行列が出来る事態となりました、また噂を聞きつけて近
隣の街からの来場者や他府県旅行者も数多く見えられ活気ある事業となりま
した。この賑わい効果を更に拡大させ商店街への流動を促し経済効果の発展
に寄与できる事業として推進致します。



海軍ホラーハウス in 舞鶴

ロシア病院の謎
by Russian hospital mystery

日時 6月30日(金)~8月19日(日)
13:00~19:00
はまっこ夜の市は21:00まで

場所 東舞鶴三条敷島だるま堂横

料金 大人500円 子供無料(小学生まで)

決して立ち入ってはいけない場所。
傷ついた兵士の亡霊がさまよう森。
旧海軍舞鶴鎮守府第三火薬庫。
誰が名付けた「ロシア病院」
戦慄の秘密が今明かされる...

主催:海軍ホラーハウスin舞鶴実行委員会

←チラシ

2018年(平成30年)6月27日 水曜日

旧海軍関係の「心霊スポット」ちなみ
怖〜い病院お化け屋敷

舞鶴市浜の三条商店街で30日、夏季限定のお化け屋敷「海軍ホラーハウスin舞鶴」がオープンする。心霊スポットとして知られる市内の旧海軍関係の建物にちなんで「病院」をテーマに、さまざまな工夫で恐怖を演出している。

お化け屋敷は市民や観光客を商店街や周辺に呼び込もうと東舞鶴地域の商店主らでつくる実行委員会が2016年からこの時期に開設。福知山公立大の学生の協力で舞鶴実業会の建物1階約50平方メートルを改装した。

青葉山ろく公園(向市岡安)近くの旧海軍第三火薬庫跡に残る建物がインターネット上で「ロシア病院」と名付けられ、心霊スポットとして紹介されている。今回はそれを受け、血に見せた赤い樹液やマネキンを使って実験や手術の様子を表現している。実行委は「地元になんだホラーハウスで多くの人を呼び込み、地域活性化したい」としている。

8月19日までの午後1〜7時(30日、7月7、14、21日は午後9時まで)。入場料500円(中学生以下は無料)。問い合わせは実行委事務局0773(62)0708。(石田真由美)

30日から舞鶴の商店街

旧海軍の建物にちなみ病院をテーマにした海軍ホラーハウス舞鶴市が、三条商店街

▲新聞記事(「京都新聞」2018年6月27日)

○関連情報 ～今年のテーマ「ロシア病院の謎」について～

◆ロシア病院とは

正式名称は海軍第三火薬廠。海軍省直属の兵器工場跡であり、戦艦大和の砲弾も置いてあったといわれている。太平洋戦争中、艦船で使用する弾薬などを製造していた軍需工場跡である。

名称の由来は不明であるが、日本の立入っては駄目な場所ベスト10に選ばれている。



(5) 「艦これ」 イベントと連携した取り組み

シミュレーションゲーム「艦隊これくしょん-艦これ-」に関連したイベント「砲雷撃戦！よーい！」が舞鶴市内で実施される際、全国から多数の参加者が訪れる。これに連動し、地域としても本イベントを推進していくために、MCA内に「舞鶴鎮守府実行委員会」を設置し、本委員会の主催で多様な活動を継続的に行ってきた。

「砲雷撃戦！よーい！」とは、イベント運営団体「SDF」が主催する「艦隊これくしょん～艦これ～」のオンリー同人誌即売会のことで、「艦これ」に関する二次創作物（マンガ、小説、グッズなどなど）の頒布を目的としたイベントである。「艦これ」のサーバー名に由来した土地で年に10回前後実施されており、舞鶴も開催地のひとつとして位置づけられている。

今年度も7月と2月の2回実施され、「舞鶴鎮守府実行委員会」として多様な仕掛けを行った。特に2月のイベントは、これまでの盛り上がりやSNSを中心に口コミで広がり、過去最高の参加者を記録することとなった。多数の来場者が見込まれることを事前に予測できたことから、「舞鶴鎮守府実行委員会」としても各関係機関と連携して受入体制を整備し、地元としての歓迎ムードを盛り上げることができた。

[1] 砲雷撃戦よーい! 42

開催日：7月22日（日）

場 所：舞鶴市立中総合会館

入場者数：7800人

○「艦これ」前日ツアー

実施日：7月21日（土）

内 容：旧海軍用路線跡めぐり



○「艦これ」前夜祭

実施日：7月21日（土）

会 場：八島5条公園



○その他



←地元商店街が支援し、JR 東舞鶴から
中総合会館までの沿道にのぼりを設
置した。



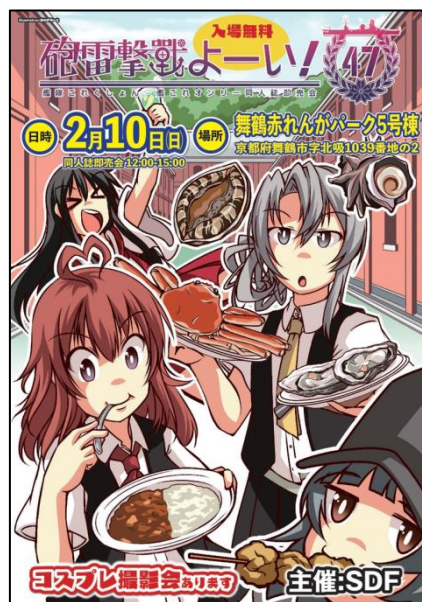
←地元出店者による屋台

〔2〕砲雷撃戦！よーい！ 47

開催日：2月10日（日）

場 所：舞鶴赤レンガパーク 5号棟

入場者数：12,000人



○「艦これ」前夜祭

実施日：2月9日（土）

参加者：650人

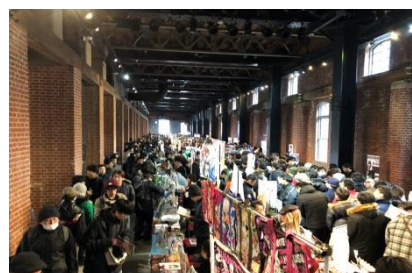


○舞鶴赤煉瓦パーク複合イベント

実施日：2月10日（日）

会 場：舞鶴赤れんがパーク 一体

主 催：舞鶴鎮守府実行委員会



【イベント①】真冬のグルメ祭り

主催者：移動販売出店チーム



【イベント②】赤れんがコスプレ祭

主催者：コスプレ参羽鴉舞鶴

【イベント③】砲雷撃戦！よーい！ 47

主催者：同人誌即売会運営会社 SDF

【イベント④】駆逐艦きくづき写真展

主催者：菊月保存会



◆本イベントの波及効果

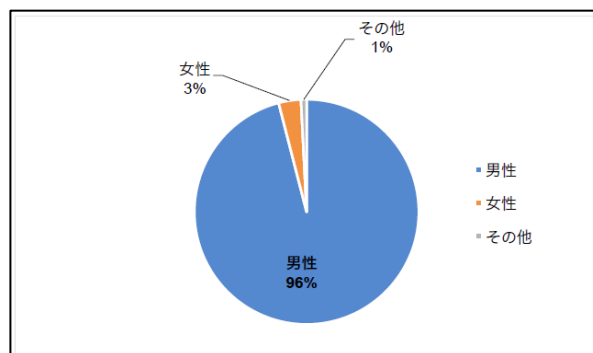
- JR 西日本および路線バス・長距離バスの臨時増発が実施された。
- 市内および近隣市町村の宿泊施設が全て満室になった。
- 舞鶴市内の飲食小売り販売店舗が大繁盛して売切れ続出した。
- 赤れんが知恵蔵売店が過去最高売上の3倍を叩き出した。
- イベント前夜祭(5,000円)の申込者がキャパオーバーの600人に達した。



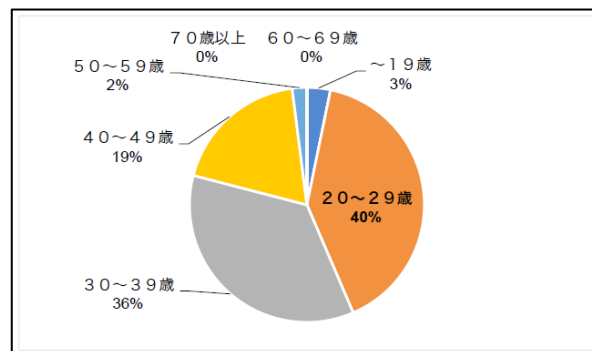
◆アンケート調査の結果／n=249

【集計】福知山公立大学地域経営学部杉岡ゼミ（文責：蒲生さん）

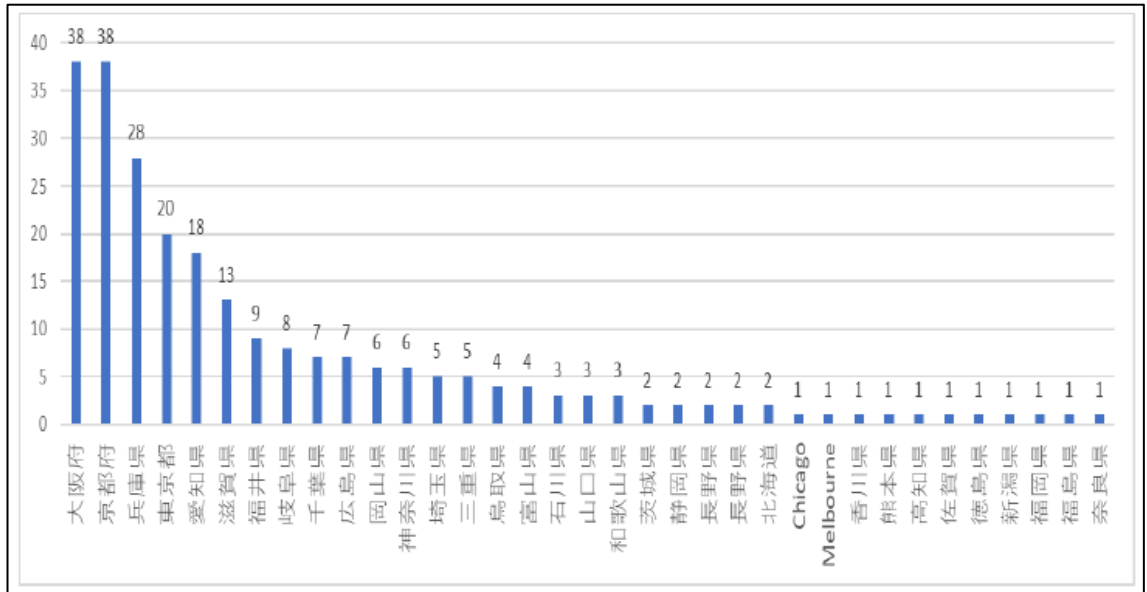
① 性別



② 年齢

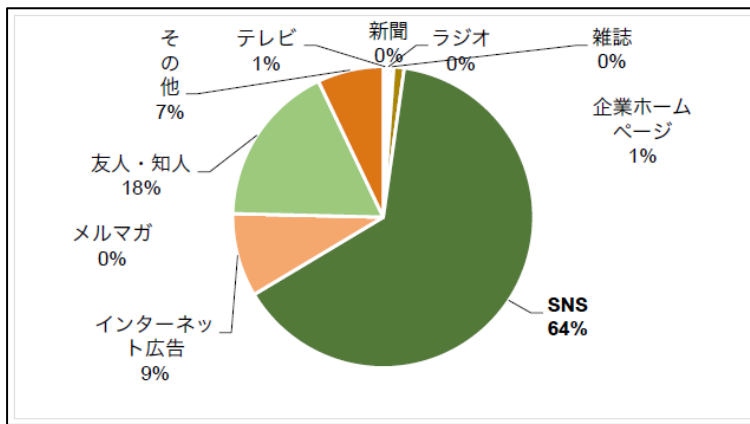


③ 来場者の出身



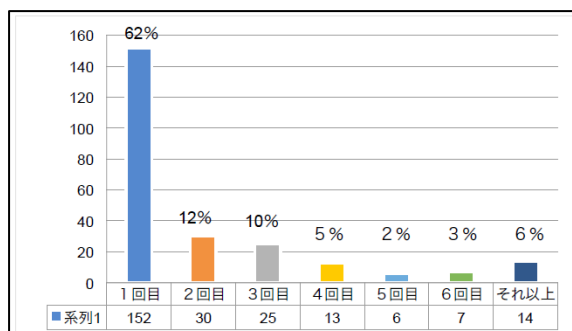
京都府やその近隣の大阪府や兵庫県が38%と最も多く、次いで近隣の都市である愛知や直通夜行バスがある東京などが多い結果となった。ただし、海外や北海道（舞鶴には小樽からの便あり）からの来場もあり、このイベントはもはや全国区になりつつあると言える。

④ イベントを知ったきっかけ



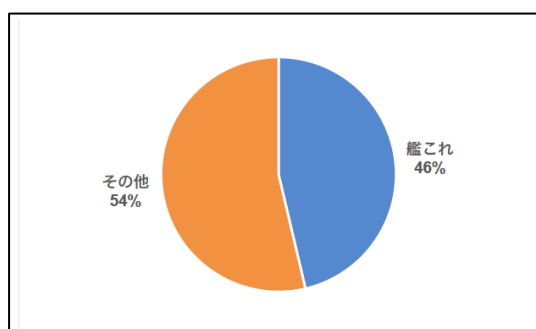
SNS 経由が64%とダントツで多い。次いで友人・知人、インターネット広告という結果であった。オタクがよく利用するSNSにはTwitterやLINE、Discordがあり、それらを経由して知ったというパターンが多いことが推測できる。

⑤ 参加回数



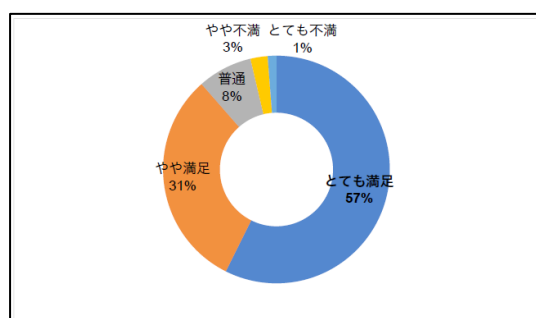
約4割がリピーターであるものの、今回は「1回目」というのが62%と大半であった。前回よりも純増になった部分がこの1回目の来訪者なのかもしれない。

⑥ 舞鶴を知ったきっかけ



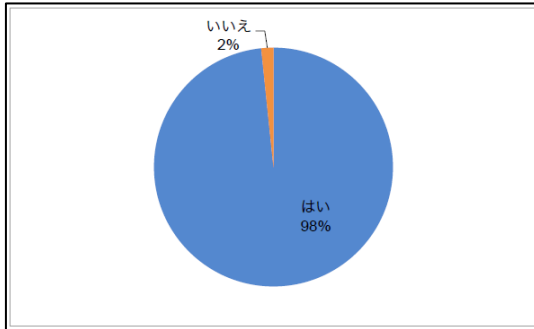
砲雷撃戦経由のものが半数弱あるものの、艦これの元となった旧大日本帝国海軍の軍艦達の歴史を辿っていくことで舞鶴鎮守府の存在に行き当たったパターンや、海上自衛隊で知ったという声などが多く聞かれた。このことから、「舞鶴＝鎮守府・海軍」というイメージがすでに定着していることが推測できる。

⑦ イベント満足度



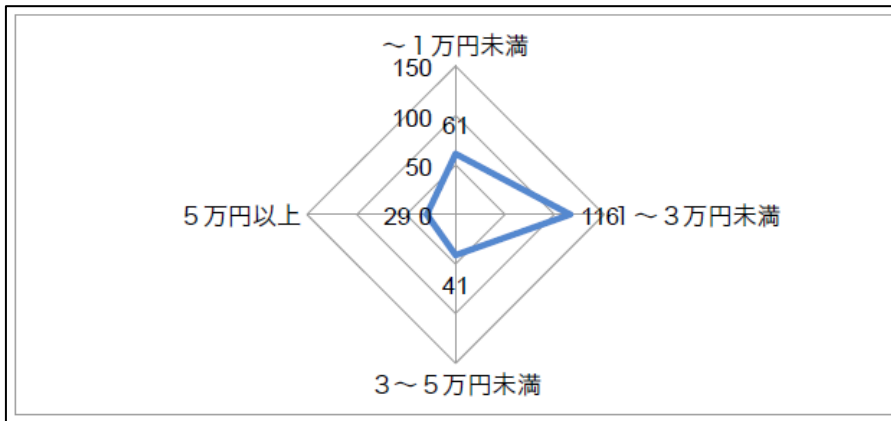
人が多かったことによる売店で発生した長蛇の列や会場内の一方通行などの不便さがあったにも関わらず、8割以上の好評価を得られている。一方で交通や宿泊については昨年と同じく満足頂けてない声もあった。今回はJRによる増便などは行われていたが、それでも足りないということであろう。

⑧ 舞鶴にまた来たいと思うか、艦これ以外で来たいと思うか



98%の方が「また来たい」という回答であった。砲雷撃戦だけでなく、食も含め舞鶴の魅力が相当アピールできている証拠ではないだろうか。

⑨ 使用した費用



1 万以上 3 万以下という回答が最も多かった。その内訳も交通費と宿泊費が大半であることが予測され、また基本的に遠距離であるほど費用も高くなる傾向にある。

(6) オリジナルキャラクターの開発・活用

漫画家「なぐも。」さんに依頼し、描き下ろしの舞鶴鎮守府オリジナルキャラクターを制作した。また、同キャラクターを用いた漫画グルメツアーリズムの仕掛けを行った。

今後は、まちづくりや、市内事業所のPRなどにも利用してもらえるように活用していく予定である。

○海軍通りキャラクター



○キャラクターを活用した市街地誘導企画（実証実験）

<活用内容>

- 舞鶴食べ歩きグルメ漫画を描いて戴き、ひと月前から全国で販売した。
- 東舞鶴軍艦名称通りのイメージキャラクターを描いていただいた。
- 舞鶴独自のグルメ新メニューを考案した(ボルシチ・舞鶴揚げ・モヒート)

<効果>

- タクシー移動・徒歩移動・路線バス移動が数倍にふくれあがった。
- SNSの情報発信で舞鶴の海軍ゆかりのスポットを紹介しつづけた。
- 市内各ホテルがイベントタイアップサービスを自主展開した。



▲舞鶴食べ歩き漫画



▲観光地紹介



▲グルメ新メニュー

3. 個店の活性化と住民サービスの向上

(1) キャッシュレス化に伴う対応について

これまで舞鶴では、リンクカードの活用を軸とし、商店街クレジット包括事業で地域のキャッシュレス推進や手数料低減に取り組んできた。

今年度は、クレジット包括事業を通じての情報化やキャッシュレス化に取り組んだ。

QRコード決済事業者は企業系、中国系、金融系など乱立状態にあり、標準化が進められている。また、日本のクレジットの様に保険制度も確立されておらず、組織としては十分に検討する必要がある。

こうした現状を受け、地域の金融機関を交えて、トラブル防止を含めたサポート体制を検討しているところである。また、キャッシュレス決済のメインはクレジット決済であることから、来年度以降も引きつづき、地域にお金が残る仕組みづくりを検討していく予定である。

○「最適なキャッシュレス環境勉強会」の開催状況

内 容	
<p><第1回委員会> 日 時：2月25日（月） 19：00～ 場 所：舞鶴商工会議所（3F 会議室） 参加者：京都銀行、京都北都信金、京都府、舞鶴市、商工会議所、東西商店街、TASK</p>	
<p><第2回委員会> 日 時：3月18日（月） 19：00～ 場 所：舞鶴商工会議所（3F 会議室） 参加者：京都銀行、京都北都信金、京都府、舞鶴市、商工会議所、東西商店街、TASK</p>	
<p><講演会> 日時：3月28日（木）19:00～21:00 場所：舞鶴商工会議所 3階 講師：信濃義朗さん (全国今日中商品券連絡協議会委員) 内容： 1. キャッシュレス騒動の注目すべき本質 2. 日本のキャッシュレスの手数料問題と入金サイト問題 3. 地域／商店街にとっての導入の為の判断要因 4. 今後予想される大きな変化 5. 推進への提言とトライアルの重要性</p>	

(2) スーパーマーケットの誘致

商店街へのスーパーマーケットの誘致については、継続して検討をつづけてきたが、諸般の事情により実現していない。

しかし、商店街周辺に居住する住民からスーパーマーケットの立地を望む意見が寄せられている。また、利便性の視点からも当該地域の立地が必要であることから、次年度以降も引きつづき検討していくこととなった。

4. 新たな事業モデルの検討

(1) 「海の京都」無人島サバイバルゲーム企画

地域の資源を生かした事業モデルを検討する中において、2017年度から検討が始まっており、関係機関と情報交換を進めつつ具体化にむけた検討が進んでいる。

こうした流れを受けて、“「サバイバルゲームの聖地」とすることで活気ある戸島そして舞鶴市を取り戻そう”というテーマで、舞鶴高専から2018年「全国高等専門学校デザインコンペティション」全国大会に参加した作品が優秀賞を受賞した。「舞鶴市優秀文化賞」もあわせて受賞しており、来年度以降の事業化を視野に入れた取り組みが本格的に動き始めているところである。

舞鶴市の現状

人口 81,284
面積 245.13km²
位置 京都市の北側に位置し、中府地域に属する。日本海に面する臨海都市として知られている。

舞鶴市の観光資源や取り組み

舞鶴行動
舞鶴市は毎年3000人ほど減り続けている。そのため、他府県に観光客が増えてきている。合計特殊出生率は1.5以上全国に比べて低く、少子高齢化が深刻化している。また、高齢化が進むにつれて、市内の人口は減少傾向にあり、若い世代が減少し人口が減少している。そのため、他府県に観光客が増えてきていることが課題となっている。

舞鶴市の人口推移

合計特殊出生率の比較

戸島について

舞鶴島の北端、舞鶴港より約1.5kmの場所に位置。面積27258.6000m²

サバイバルゲームについて

サバイバルゲームは、イオン等の商売を促進するために導入された。ゲームを行うことで、地元産品の販売を促進し、観光客の誘致を図る。また、ゲームを通じて、地域の魅力を発信し、観光客の誘致を図る。また、ゲームを通じて、地域の魅力を発信し、観光客の誘致を図る。

戸島でサバイバルゲームを行うメリット

① 観光客の誘致
② 地元産品の販売促進
③ 地域の魅力を発信
④ アクセスがしやすい
⑤ 観光客の誘致

プロセス

STEP1
閉鎖された活用されていない地域資源である戸島の整備を行いサバイバルゲーム施設とする。

STEP2
年々増加傾向にある、外部に対して閉鎖的な若者たちが、外に出て楽しみながら利用できるような場所をつくる。

STEP3
身体を動かす楽しさを改めて知ってもらうとともに市民の健康を担い、若い世代を中心とした活気あるまちづくりを行う

STEP4
UIH、新たな観光資源など通って舞鶴市の掲げる交流人口3000万人、経済人口10万人を達成するとともに多様な地域の方の受け入れを行い若者の活性と共に舞鶴市に新たな文化を取り込み、個性的なまちづくりを行う。

アンケート調査 (高専生を主としたアンケート調査)

質問1: 95%ゲームを知っていますか? (COI、質問行動なし)
質問2: サバイバルゲームをしたことはありますか?
質問3: 戸島という観光地があるのを知っていますか?
質問4: サバイバルゲームに興味がありますか?
質問5: サバイバルゲームは必要で観光客が来るといいと思いませんか?
質問6: サバイバルゲームをしたことはありますか?
質問7: サバイバルゲームに興味がありますか?

結果

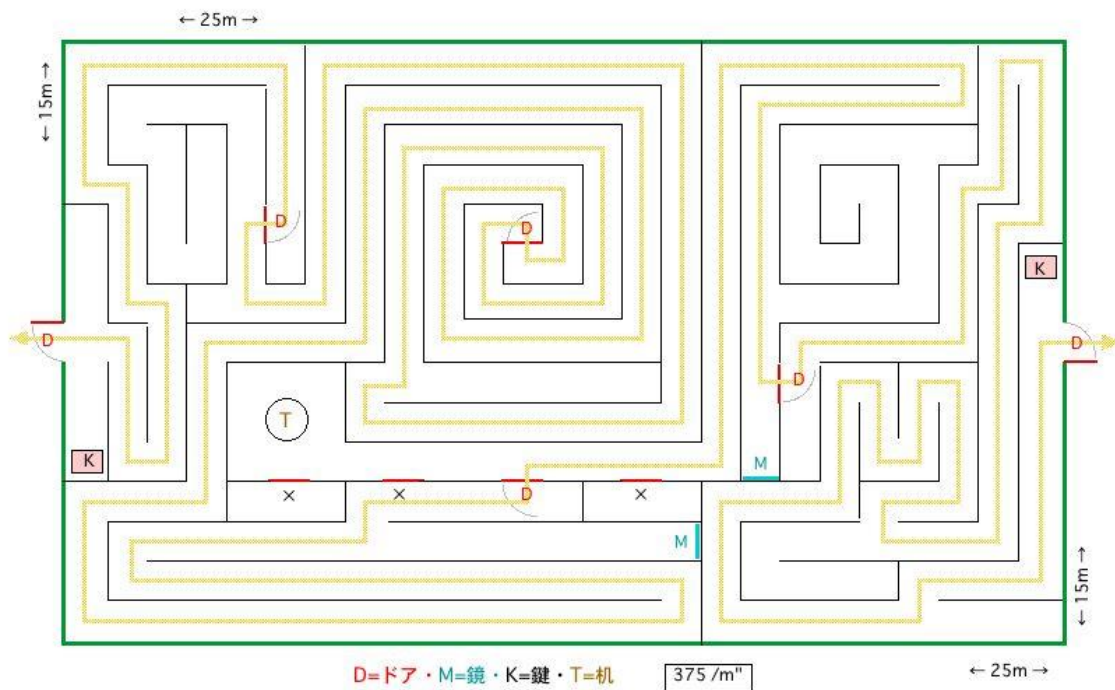
アンケート結果より、学生では多くの人がサバイバルゲームを知っており、また、興味がある。また、サバイバルゲームをしたことのある人が多く、また、サバイバルゲームに興味がある。また、サバイバルゲームは必要で観光客が来るといいと思いませんか? という質問に対しては、多くの学生が「はい」と回答している。

▲舞鶴高専学生による作品「舞鶴行動」

▼舞鶴高専学生による戸島模型



TOSHIMA作戦巨大迷路図(110坪)



○サバイバルゲームとは

主にエアソフトガンと BB 弾を使用して撃ちあう、概ね 20 世紀以降の銃器を用いた戦闘を模す日本発祥の遊び、あるいは競技。サバゲー、サバゲとも略す。

1980 年代、当時米国で流行っていたペイントボールゲームを日本でも楽しめないかということで、おもちゃのエアソフトガンを代用しておこなわれたのが始まりといわれている。

○候補地「戸島」について



この島は、戦時中の 1897 年（明治 30 年）に国が買収し、海軍の施設として 1909 年（明治 42 年）火薬温室と海軍病院消毒所が、1929 年（昭和 4 年）には海軍工廠大砲発射場が設置された。

戦後、一旦は市民に払い下げられ農地として利用されていた時期があったが、京都府が、青少年の野外活動の場として活用するために購入し、1969 年（昭和 44 年）に「青少年の島・戸島」として開島した。しかし、施設の老朽化等により、2008 年（平成 20 年）シーズンから一時休島されている。

(2) ビジネスホテルの誘致

近年の外国人観光客の増加や、舞鶴市および周辺地域におけるビジネスを目的とした来訪者が増加していることから、2015年から商店街の一角にビジネスホテルの誘致に取り組んできた。結果、2018年度末に着工することが決定している。

今後は商店街創生の中核的施設のひとつとして、地域活性化の一翼を担うことを期待している。

○概要

ホテル名：スーパーホテル東舞鶴（仮称）

建設地：京都府舞鶴市字浜小字浜 419 番地（八島商店街内 モナコ会館跡）

主要用途：ビジネスホテル

工事種別：新築

規模等：鉄筋コンクリート造 地上 10 階建、客室:100 室

建設者：マルケイ

【参考】市長宛の要望書(2018年9月3日)

平成 30 年 9 月 3 日

舞鶴市長 多々見良三殿

商店街創生支援プロジェクト事業

協) 東舞鶴商店街連盟

理事長 伊庭八郎

特定非営利活動法人 MCA

理事長 塩見邦夫

中浜区 区長 藤原 隆一

東舞鶴地区のまちづくりの一翼を担う、公共性の高い、 商店街内でのビジネスホテル開業の応援について

日頃は商店街の振興に格別のご配慮を賜り誠にありがとうございます。

今回予定している「スーパーホテル東舞鶴（仮称）」開業については、現在取り組んでおります商店街支援プロジェクト事業を進めるにあたり大きなインパクトのある民間投資の誘発であり、あらゆる方面（舞鶴市の観光振興、東舞鶴の商店街創生、社会的意義など）で多くの波及効果得られる拠点になると考えております。「まちづくり」「公共有用性」「社会貢献」に向けて大変重要な事業であります。

この件において、ご理解いただき、何卒ご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

【事業計画】

○ホテル名：スーパーホテル東舞鶴（仮称）

○建設地：京都府舞鶴市字浜小字浜 419 番地（八島商店街内 モナコ会館（閉館）跡）

- 主要用途：ビジネスホテル
- 工事種別：新築
- 規模等：鉄筋コンクリート造 地上9階建
客室:100室
- 建設者：マルケイ 神田義久

【東舞鶴中心市街「まちの顔の再生」と商店街創生支援プロジェクト事業】

舞鶴市では引揚げ世界記憶遺産、旧軍港日本遺産、重要文化財赤煉瓦倉庫群を始めとする海軍ゆかりの街として近年にわかに注目が集まっており、海上自衛隊北吸棧橋や赤れんがパーク並びに引揚記念館やとれとれセンターなどへの観光客の増加が著しく増大していると思います。

しかし乍ら舞鶴を代表するそれらの施設は、市街地には隣接しておらず商店街などの観光経済効果の成立には至っていません。

「まちの顔」である中心市街地活性化は、将来的に舞鶴市の都市機能の健全化や魅力の向上において欠かせない要因となっています。東舞鶴地区においては、五条公園を中心とした活性化策が、古くはTMOの時代から議論されてきましたが、ビルセンターの取り壊しと五条公園の整備が近づく中、民間投資が徐々に始まりつつある。

そんな中、民間企業やソーシャルビジネス団体、特定非営利活動法人など外部の力を導入しながら、「商店街創生プラン」の策定やプランに基づく事業展開など、商店街の振興につながるモデル事業を実施する「商店街創生支援プロジェクト事業」が2016年よりスタートし数々の実績を上げている。

【東舞鶴商店街創生事業に於いてこれまで(過去5年事業実績)の取組と今後(継続事業と新規事業)の展望。】

- ① **賑わい創出事業**（・五条公園レトロ街・東西舞鶴ちゃったバル・日曜朝市・金曜日・はまっこ夜の市・はまっこだるま祭り・プレミアム商品券・リンクカード事業）
- ② **活性化誘導事業**（・海軍ホラーハウス運営・艦これ前夜祭運営・軍艦通り33箇所聖地巡礼事業（御朱印帖））
- ③ **民間企業誘致事業**（・ホテル企業誘致活動・食品スーパー誘致活動）
- ④ **観光集客事業**（・艦これ同人誌即売会支援事業・飲食模擬店連合運営事業）
- ⑤ **起業支援事業**（新規飲食店舗出店支援・調査アンケート代行事業）
- ⑥ **コト起し事業**（商店街観光インフォメーション・地産活用開発食品発表・海軍御用達お土産館運営）
- ⑦ **歴史文化芸術事業**（・軍艦通り観光マップ制作・商店街萌えキャラ制作）
- ⑧ **コンサルタント事業**（起業関連事業紹介・講演会等・土地家屋交換・空き店舗再生等）

【「商店街創生支援プロジェクト事業」とスーパーホテル建設誘導の経緯】

平成16年10月頃、モナコ会館（パチンコ店）設備の老朽化に伴う閉店の中、跡地の有効活用について商店街創生プロジェクト事業コンサルタント業務に相談が持ちかけられ

再生プラン策定をスタートしました。背景として目の前に隣接する、古くはTMO時代における街中セントラルパーク構想や商店街創生プロジェクト事業として5条公園及び周辺整備計画に対する都市型防災公園の提案など「まちの顔」再生の起点として議論されてきた経緯があります。

当初は、食品スーパー撤退による買い物難民対策として食品スーパーの誘致計画が持ち上がりましたが、行政サイドより「旧マイコム」再生に食品スーパーを使えないかとの話があり、別の再生計画を模索する中、ビジネス客・観光客ともキャパが飽和状態であるホテル誘致の話が持ち上がり研究に入りました。数々の大手有名ホテルと交渉を重ねる中、ホテル宿泊者満足度4年連続第1位のスーパーホテルが出店に対する市場調査の結果を受け出店に至った経緯があります。

ビジネス宿泊客・観光宿泊客需要の将来的な増大を評価しての出店です。

スーパーホテルは地方創生や地域貢献に力を入れておられるホテルチェーンで地方自治体からも「街おこし」のためと直接依頼などもたくさんあるホテルです。知名度は全国区で、しかも無料健康朝食と天然温泉の大浴場があるということでホテルとしてのファンもたくさんおられます。

ホテル開業に伴う関連事業としては、朝食外注事業（年間2400万円）清掃事業、クリーニング請負事業、外部夕食等紹介事業など多くの波及効果が生まれます。

また、五条公園及び周辺整備計画を近々に控えていることと、ホテル開業に伴う民間投資の誘発が数々と持ちかけられています。夕食提供が無いことから、ビジネス顧客に対する商談場所の提供として、居酒屋、カフェ、外食産業、貸事務所、観光客に対する環境提供としてお土産、外食等、波及効果としての民間企業誘致が進むことで好循環が生まれ「街の顔の再生」の大きなきっかけとなります。

【商店街及び地域の応援施策「スーパーホテル東舞鶴（仮称）」】

東舞鶴中心商店街地域開業する「ホテル」を応援する施策として以下の4点を実行します。

- ① 東舞鶴グルメ&お土産MAPの作成。（一般観光客やクルーズ船観光客の方々からのニーズ大）
舞鶴市内の観光スポットや他のホテルにも設置強力をお願いする。
- ② 地域の名産やお土産、観光案内コーナーを地域・商店街・公的機関と連携し作ります。
- ③ 東舞鶴地区まちづくりのコンセプトにある「地域の力を引き出す拠点」として、「八島公園」が再編整備される予定ですが、「スーパーホテル東舞鶴（仮称）」開業と連携し、景色が変わることで民間投資の誘導を積極的に行い地域活性化につなげる事で、側面的なホテルへの支援につなげる。
- ④ 商店街創生支援プロジェクト事業で培った事業継続や人脈の有効活用や、持続可能な街づくりを実行していける仕組みづくりなど、一つ一つの事象（ホテル誘致）が波及効果を生み出し、地域政策の形成と評価そして地域住民同士の学び合いの促進を後押しすることが「地域力」に繋がることと思っています。

番外 深夜まで営業しているビジネスホテルの開業に合わせて、自治会・商店街とも協議して、明るく深夜でも人が通りやすく、安心安全な商店街づくりを目指します。

以上でありますので、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

尚、京都府の補助金につきましても申請したく存じておりますので、舞鶴市からのご推薦を賜りますようお願い申し上げます。

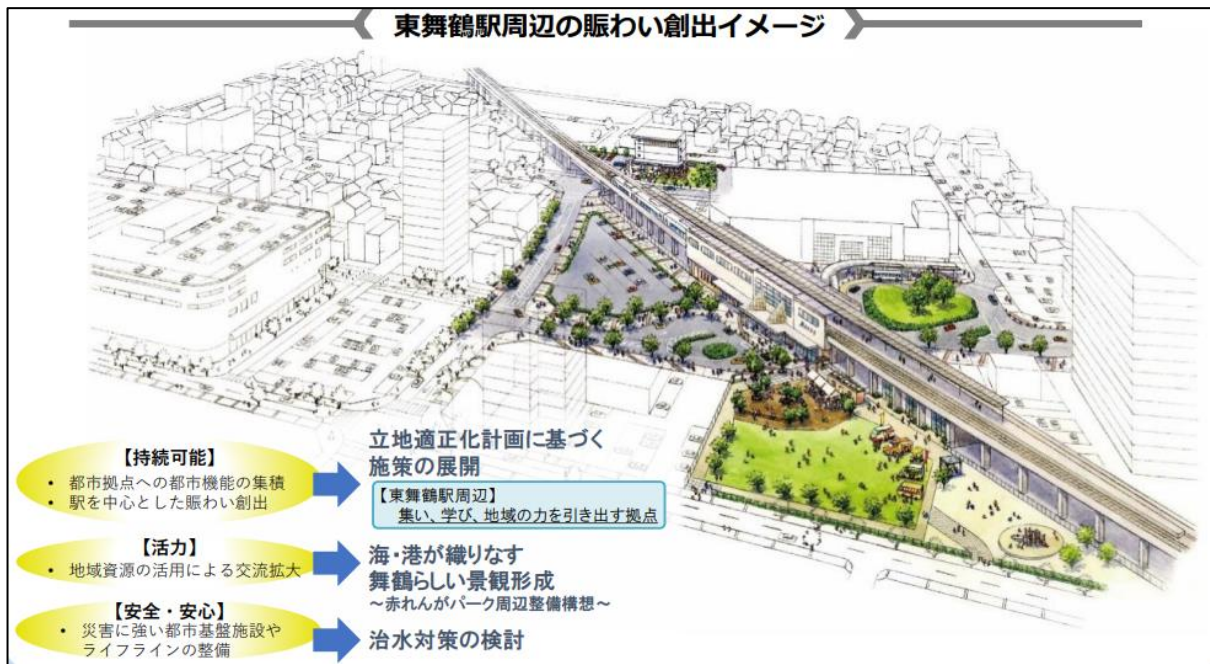
5. ハード整備の方向性の検討

ハード整備の方向性については、自治会など地域団体とも連携して市の関係部局との間で協議を重ね、「都市計画マスタープラン」および「立地適正化計画」が2018年4月に策定された。

「八島公園」については、「拠点づくり：商業区域の活性化に取り組む人たちが活動できる広場空間」として整備されることとなった。

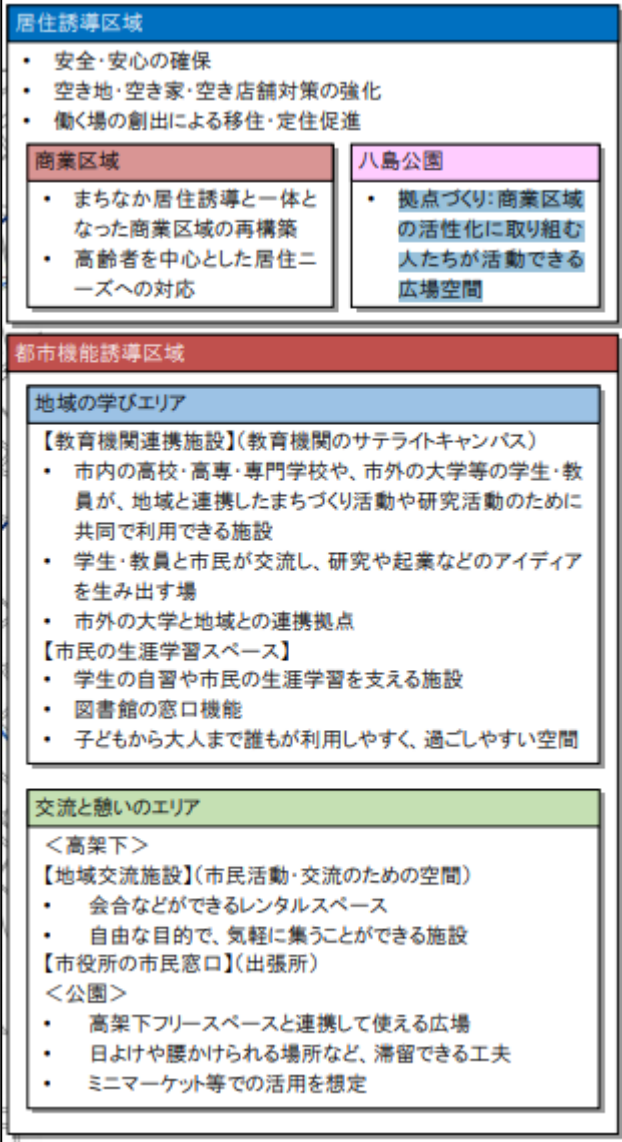
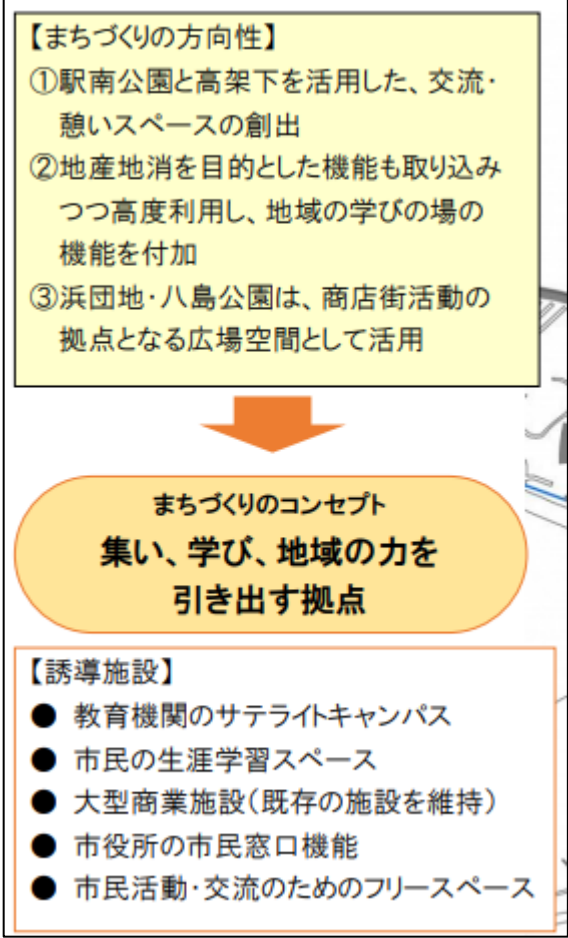
○第3次舞鶴市都市計画マスタープラン（概要）





○舞鶴市立地適正化計画（概要）





第3章 本プロジェクトの成果（2015～2018年度）と今後に向けて

1. 概略

（1）本プロジェクトの概要

本プロジェクトは、2015年10月に京都府が設置した「商店街創生センター」の事業のひとつである「創生商店街」への併走支援として実施されている。当該商店街は「創生商店街」に選定され、特定非営利活動法人 MCA が実施主体となって事業を進めている。

○特徴

- 重点的に活性化に取り組む府内の商店街 5カ所を決定する。
- それぞれの特性や歴史などを踏まえた重点テーマを設定する。
- テーマに関するノウハウを持つ民間企業・団体を公募する。
- 3年をめどに活性化モデルの創出を目指す。

○事業概要

対象となる商店街：協同組合東舞鶴商店街連盟

重点テーマ：国際観光都市の拠点づくり

海軍御用達商店街やクルーズ船寄港などの資源を活かし、国内外の観光客を温かいおもてなしで受け入れる、国際観光都市の基盤となる商店街づくりを目指す。

主な取り組み内容：

国際観光商店街づくりを目指して、海軍や艦これ等の店街連盟 コンテンツを活用した土産物開発や関連イベント開催、まちづくり会社の設立、ゲストハウスの開設等を推進

(2) 実施体制

本プロジェクトの実施にあたっては、商店街関係者だけでなく、多様な構成メンバーで多角的な視点から検討を進めた。

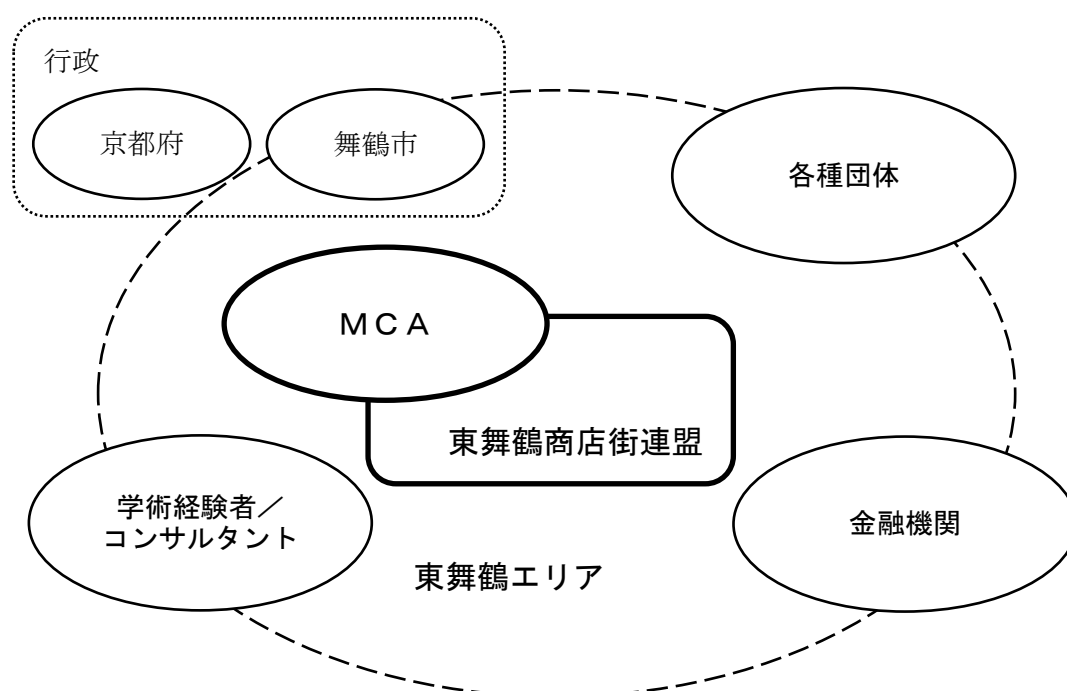
特に、対象となる「東舞鶴商店街連盟」の「商店街創生プラン」を、地元のNPOであるMCAが担ったことは特徴的である。MCAは、東舞鶴商店街連盟の加盟店のみならず、多様なメンバーで構成される団体である。MCAが実施主体となることにより、商店街を含めた「まちづくり」の観点から、本プランを検討することができた。

また、本プロジェクトが京都府による「創生商店街」の事業であることから、府と舞鶴市が連携した伴走支援が有機的に実施された。

さらに、地域の多様な団体への参加の呼びかけが可能となり、地域全体のマネジメントについて検討することが可能となった。

○構成メンバー

- *実施主体：特定非営利活動法人MCA
- *商店街：東舞鶴商店街連盟
(大門商店街、三条商店街、七条商店街、八島商店街)
- *行政：京都府、舞鶴市
- *各種団体：舞鶴観光協会、舞鶴商工会議所
- *金融機関：京都北都信用金庫
- *学術経験者：尾上亮介氏（舞鶴工業高等専門学校）
杉岡秀紀氏（福知山公立大学、京都府立大学）
- *コンサルタント：有限会社協働研究所



2. 主な経過

(1) 本プロジェクトをめぐる環境の変化

①日本遺産に認定

日本文化遺産とは、文化庁が地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組みへの支援制度。平成 26 年度に制度が創設され、平成 32 年 (2020 年) までに全国で 100 件程度が認定される予定である。

2 回目となる 2016 年 4 月、舞鶴市のあゆみに大きな影響を与えた旧軍港市のストーリーが認定された。

認定ストーリー：鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴

～日本近代化の躍動を体感できるまち～

ストーリーの骨子：

- 明治期の日本は、近代国家として海防力を備える必要があったため、国家プロジェクトにより天然の良港 4 か所 (横須賀・呉・佐世保・舞鶴) に軍港を築き、鎮守府を置いた。
- 静かな農漁村に人と先端技術が集まり、独自の都市形成の歩みの中で軍港都市が誕生し、日本の近代技術が育まれた。
- 日本の近代化を推し進めた四市には、海軍由来の食文化もまちに浸透し、多種多様な数多くの近代化遺産とともに、躍動した往時の姿を体感できる。



▲舞鶴赤れんがパーク (舞鶴旧鎮守府倉庫施設)

② 「日本の 20 世紀遺産」に選定

日本の 20 世紀遺産は、ユネスコ世界文化遺産の諮問機関である国際記念物遺跡会議 (ICOMO/イコモス) の日本組織である「日本イコモス国内委員会」が、日本国内における 20 世紀に建築・形成された文化的財を顕彰すべく選定したものである。

2017 年 (平成 29 年) 12 月に選定物件が公表され、「舞鶴の海軍施設と都市計画 / 生き続ける軍都の格子状街路と赤煉瓦の施設群」が選定された。



舞鶴旧鎮守府倉庫 (重要文化財)



北吸浄水場 (重要文化財)



新舞鶴市街地図 (初版: 大正6年)

③ 「訪れてみたい日本のアニメ聖地 88」に選定

「日本のアニメ聖地 88」とは、全世界の日本のアニメファンを対象に行ったアニメ聖地 Web 投票の結果をベースに、一般社団法人アニメツーリズム協会がアニメ業界、地域関係者等と協議をして選定したものである。

2017 年 8 月に『日本のアニメ聖地 88 (2018 年版)』を発表。舞鶴市『艦隊これくしょん - 艦これ -』がそのひとつに選定された。2019 年度版も引きつづき選定されている。



▲認定プレート



▲ムック本

④ 「艦これ」 イベントの盛り上がり

シミュレーションゲーム「艦隊これくしょん-艦これ-」に関連したイベント「砲雷撃戦！よーい！」への来場者が年々増加している。

「砲雷撃戦！よーい！」とは、イベント運営団体「SDF」が主催する「艦隊これくしょん～艦これ～」のオンリー同人誌即売会のこと、「艦これ」に関する二次創作物（マンガ、小説、グッズなど）の頒布を目的としたイベントである。舞鶴をはじめ、艦これのサーバー名に由来する全国各地で開催されており、「聖地巡礼」ともいえる現象となっている。近年は、同人誌情報にあわせて地元のグルメ情報が SNS で配信されたり、前夜祭やコスプレイベントなどの関連の取り組みが連動して行われることが多くなっている。

舞鶴においては、イベントの開催規模等の事情から来場者数に増減はあるが、全体として増加傾向にあり、特に今年 2 月 10 日(日)に開催された第 8 回では、過去最高の来場者を記録した。「舞鶴鎮守府実行委員会」が、全国的な動きにいち早く対応していることが一因となっているといえよう。

舞鶴における艦これイベントの来場者数 (MCA 調べ)

	開催日	来場者数(人)
第 1 回	2014 年 2 月 9 日	1,500
第 2 回	2014 年 7 月 13 日	3,000
第 3 回	2015 年 5 月 17 日	5,000
第 4 回	2016 年 7 月 17 日	10,000
第 5 回	2017 年 7 月 23 日	8,000
第 6 回	2018 年 2 月 18 日	8,000
第 7 回	2018 年 7 月 22 日	7,800
第 8 回	2019 年 2 月 10 日	12,000



▲第 8 回での会場の様子

(2) 「商店街創生プラン」の策定と見直しについて

2015年度

- 「舞鶴国際観光都市商店街化戦略会議」の開催（全4回）
- 「商店街創生プラン」の策定
（当初のプラン）

項目	事業	
(1) 担い手の確保・育成に向けた取り組み	① 中小企業事業者による担い手の確保	<ul style="list-style-type: none"> * 中小企業交流会（仮）の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 舞鶴を取り巻く環境の変化と今後の方向性等など情報の共有化 ・ 本プランを促進するための共同体制づくり * 「海軍」をキーワードにしたサービスや商品の開発検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各事業所の得意分野を活かした新規事業やプロジェクトの開拓 * 本プランの担い手づくり
	② 起業塾・創業セミナーなどの開催	<ul style="list-style-type: none"> * 舞鶴市および周辺自治体の住民・学生などを対象とした起業セミナーの開催（事業計画・実施、資金計画・調達など） * 起業希望者のための相談体制づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 商工会議所や地元金融機関などとの連携 ・ 不動産業者と連携した物件の紹介 * 起業を促進するための施策の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ お試し事業の実施 ・ 創業準備に関する優遇策 ・ 融資制度 他
(2) 現在取り組む観光等でのサービスの充実	① 観光情報の発信強化	<ul style="list-style-type: none"> * 既存情報の整理 <ol style="list-style-type: none"> ① ホームページ、パンフレット、SNS など既存情報の整理 ② 利用者へのヒアリング、アンケートなど ③ 「海軍」をテーマにした情報の整理 * 来街者をまちなかに誘導するコンテンツの開発 <ol style="list-style-type: none"> ④ 「艦隊これくしょん」イベントと連携した商店街への誘導 ⑤ 「海軍」をテーマにした観光情報とまちなか情報の連携
	② 外国人観光客を見込んだインターネット環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多言語ホームページの開設 ・ Wi-Fi 環境の整備 ・ おもてなし事業者の募集 ・ 民泊情報の発信
	③ 土産品の開発	<ul style="list-style-type: none"> * 現状把握 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海軍御用達おみやげ館での人気商品、売上の推移 ・ 他の観光施設や土産物販売店などにおける品揃えおよび販売実績など * 「海軍」に関する情報の収集と発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ エピソードの収集 ・ 舞鶴ならではの「物語」づくり ・ 派生する技術の内容やエピソードを「看板」で表現し、設置などを検討 * お土産開発 <ul style="list-style-type: none"> ● 「海軍」関連エピソードに基づく商品の開発検討 ・ 幅広いアイデアの募集 <ul style="list-style-type: none"> 例：モニター、デザインコンペ、イベント参加者へのアンケート など ・ 自衛隊や海上保安庁関係者へのヒアリング * オンラインショップの開設

(3) 個店の活性化と住民サービスの向上	①観光客に対応した商品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> * 商店街加盟店へのアンケート調査 <ul style="list-style-type: none"> ・「艦隊これくしょん」イベントの感想 ・「海軍」に関連する文献・工芸品、エピソードの有無 ・「海軍」に関連した各個店での商品・サービス提供の有無 * 「艦隊これくしょん」イベントとの連携 <ul style="list-style-type: none"> ・3月5日のイベントの実績を踏まえた取り組みの継続 ・商店街としての歓迎ムードの形成 <li style="padding-left: 40px;">例：各個店が所有する海軍に関連する品の展示 <li style="padding-left: 40px;">海軍に関する情報の来店者へのエピソードの披露 <li style="padding-left: 40px;">各通りでの飾り付け 他 * 情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・各個店が提供している商品・サービス内容 など
	②カードと連携した個店活性化	<ul style="list-style-type: none"> * 市との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・行政ポイントの検討 * 周辺自治体との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・京都府などとの協体制づくり * 地域貢献協定の締結 <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全に関する協体制づくり ・未加入店および未登録者への呼びかけ強化
	③定期的な勉強会の開催	<ul style="list-style-type: none"> * 定期的な勉強会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者は誰でも可 ・スピーカーからの話題提供に基づき、自由に意見交換できる場 * 実験的な取り組みの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・勉強会で出された意見やアイデアを活かした取り組みを試験的に実施 ・実験的な取り組みに基づく継続的な活動の模索 * 人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・活動の実績を踏まえての人材の育成・受け入れ
(4) 新たな事業モデルの検討	①モデル事業としての民泊・ゲストハウスの開設	<ul style="list-style-type: none"> * モデルとなる民泊・ゲストハウス施設の選定 <ul style="list-style-type: none"> ・物件の決定 ・改装 ・利用者の募集（関係団体との情報交換） * 環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・法的手続き（市との協力） ・改装費用の調達 ・管理体制の整備 ・情報の発信（JSTO との連携） * 利用者へのサービスの充実化 <ul style="list-style-type: none"> ・舞鶴ならではのおもてなしメニューづくり ・利用者とのふれあい * 他の物件探し
	②空き店舗対策	<ul style="list-style-type: none"> * 不動産業者との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・情報交換の場づくり ・商店街としての新規出店者や家主への優遇策の検討 * 東舞鶴商店街の空き店舗情報の統一化 <ul style="list-style-type: none"> ・物件情報の発信（賃料、初期費用など） ・商店街としての方針の検討（参入して欲しい業種の選定など） ・情報一元化に向けた検討 ・スーパーマーケットの誘致の検討

(5)ハード整備の方向性の検討	<ul style="list-style-type: none"> *街中観光に関する市担当者との意見交換の場の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・市営住宅の建替に伴う新設ビルの建設 ・五条公園の整備 ・景観整備 ・海軍レストランの開設など *公共施設など地元住民が利用する施設の誘致 <ul style="list-style-type: none"> ・公民館、図書館の誘致 ・スーパーマーケットの誘致
-----------------	---

2016年度

○「商店街創生プラン」の見直し

本プロジェクトの事業費が委託から補助に変更になったことに伴い、他の補助金の活用状況などとあわせて本プランを遂行する上での実施体制や、各事業の位置づけ等を見直した。

当初のプラン		見直し内容
(1) 担い手の確保・育成に向けた取り組み	①中小企業事業者による担い手の確保	勉強会の開催
	②起業塾・創業セミナーなどの開催	その他の事業
(2) 現在取り組む観光等でのサービスの充実	①観光情報の発信強化	観光情報の発信へ
	②外国人観光客を見込んだインターネット環境の整備	環境情報の発信 その他の事業
	③土産品の開発	海軍コンテンツを活用した活性化
(3) 個店の活性化と住民サービスの向上	①観光客に対応した商品・サービスの提供	その他の事業
	②カードと連携した個店活性化	その他の事業
	③定期的な勉強会の開催	勉強会の開催
(4) 新たな事業モデルの検討	①モデル事業としての民泊・ゲストハウスの開設	民泊・ゲストハウスの開設にむけての準備作業
	②空き店舗対策	その他の事業
(5)ハード整備の方向性の検討		(3)③に一括

○2016年度の実施事業

- 1、民泊・ゲストハウス開設にむけての準備作業
- 2、海軍コンテンツを活用した活性化
 - (1) お土産品の開発
 - (2) 海軍キャラクターの活用
- 3、勉強会の開催
 - (1) 地域創生×商店街×大学フォーラム

舞鶴×商店街 地域漱石の未来はどうか？（2016年11月11日実施）

（2）地域創生×商店街×大学フォーラム

舞鶴×商店街 地域漱石の未来をどうする？（2017年2月13日実施）

4、観光情報の発信

（1）イベントと連携したコンテンツの作成

（2）「アニメ聖地」88か所選定と連動した取り組み

5、その他の事業（他の補助金等を活用した事業）

（1）他事業との連携

- ・ Wifi 機器の設置
- ・ お土産品 WEB 販売の開始
- ・ 海軍レストランの開店との連携
- ・ マイコム1階部分のスーパーの誘致

（2）その他の活動

- ① 各種イベントへの企画・協力
- ② 八島にぎわい日曜日「モン・レーブ・ポルタ」の開催およびスタンプ事業
- ③ まちづくり会社の設立にむけて検討の開始
- ④ LINK カードと連携した事業

2017年度

○「商店街創生プラン」の見直し

本プロジェクトの実施に際して、補助金・助成金の種類に関わらず、全体として本プランを遂行していく体制に変更した。

○2017年度の実施事業

1、担い手の確保・育成に向けた取り組み

○まちづくり会社の検討

2、現在取り組む観光等でのサービスの充実

○「海軍御用達お土産館&どこでもギャラリー」のリニューアルオープンと付随する取り組み

3、個店の活性化と住民サービスの向上

○スーパーマーケットの誘致

4、新たな事業モデルの検討

○ビジネスホテルの誘致

○無人島サバイバルゲーム企画

5、ハード整備の方向性の検討

○舞鶴市「都市計画マスタープラン」「立地適正化計画」等への対応

3. 事業の実施状況

(1) 「海軍御用達おみやげ館&どこでもギャラリー」のリニューアルオープン

○海軍御用達おみやげ館

「海軍御用達おみやげ館」は、「にぎわい回復事業」として2018年2月に開設した。SNS等の情報の拡散により、「艦これ」イベントの際はもちろん、それ以外の時においても、おみやげ館を目的に訪問する観光客も多い。また、海上自衛隊の教育隊の学生が運営に協力するなど、地域の交流拠点にもなっている。

<にぎわい回復事業の概要>

- ・ イコモス指定の都市計画を広く内外にPRする為の広告及びSNS
- ・ 商店街内に、お土産アンテナショップを開設
- ・ イラストを用いた買い物袋を作成し個店でのサービス特典(500円商品券と古地図引換券)を落とし込み中心市街地商店街に誘導
- ・ イコモス制定の「20世紀遺産」20選に選ばれた内容を展示PRするコーナー
- ・ 海軍レシピに因んだ講談の実施
- ・ ご朱印帳のをブラッシュアップ
- ・ LINKCARD(地域ポイントカード)複数ポイント付与



▲おみやげ館の開設時に実施した
イコモス制定記念イベント



▲個店でのサービス特典



▲おみやげ館への訪問を報告した観光客のブログ

〇どこでもギャラリー

地域の商店街や公共施設等をギャラリーとし、芸術家等の作品を発表する場として活用することでアートの視点から地域の活性化を図る「どこでもギャラリー」事業（京都府：京都文化力プロジェクト認証事業）として、2018年2月にリニューアルオープンした。

おみやげ館内に設置しており、旧海軍関係の展示を中心に継続的に活動している。



▲リニューアルオープンを伝える新聞記事（「舞鶴市民新聞」2018年2月23日）

(2) ネットショップの立ち上げ

舞鶴の通販ショップ「海軍御用達おみやげ館」を立ち上げ、舞鶴土産、海軍グッズやご当地商品などを販売している。

URL <http://www.kaigun-shop.net/>

開始 2017年11月11日

「海軍御用達おみやげ館」は、お土産物という概念から生まれたネットショップです

カレンダー

2019年3月 次月>>

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

海軍御用達おみやげ館ようこそ！

舞鶴の通販ショップ「海軍御用達おみやげ館」へご来店頂きありがとうございます。当店で人気の舞鶴土産をご利用頂きやすい送料で全国へお届けします。海軍グッズやご当地商品など豊富なお土産を今後ご提供致します。お気軽にご利用ください。

What's New

新着商品

- ・特定高取引法表示
- ・ご利用案内
- ・メールマガジン
- ・お問い合わせ

販売ショップ一覧

- ・舞鶴巧芸

防衛弘済会 舞鶴 部隊帽子 (スコールドル キャップ) JDSみようこう
New No.5

防衛弘済会 舞鶴 艦艇Tシャツ
New 2,800円

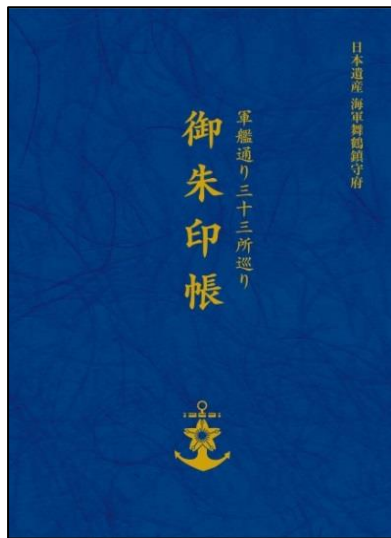
(3) お土産品の開発

舞鶴における観光資源のひとつとして、多様な事業所・団体と連携したり、独自でのお土産品の開発に取り組んできた。「海軍御用達おみやげ館」にて購入することができる。

また、「舞鶴巧芸」「防衛弘済会 舞鶴」による商品は、「海軍御用達おみやげ館」ネットショップでも購入することができる。

① オリジナルのお土産品

○軍艦通り三十三ヶ所巡り 御朱印帳



○スタンプラリー



○オリジナルようかん



○オリジナルキャラクターによる商品



②事業所・団体と連携したお土産

○舞鶴巧芸

		
<p>舞鶴巧芸 オリジナルカードケース</p> <p>New Pick Up No.1</p> <p>4,500円</p> <p>在庫わずか</p> <p>カートに入れる</p>	<p>舞鶴巧芸 エコカップ オリジナル艦船タンブラー</p> <p>New No.4</p> <p>1,500円</p> <p>在庫わずか</p> <p>カートに入れる</p>	<p>舞鶴巧芸 エコカップ 商店街オリジナルキャラタンブラー</p> <p>New</p> <p>1,500円</p> <p>在庫わずか</p> <p>カートに入れる</p>

○防衛弘済会 舞鶴

		
<p>防衛弘済会 舞鶴 艦艇Tシャツ</p> <p>New</p> <p>2,800円</p> <p>在庫わずか</p> <p>カートに入れる</p>	<p>防衛弘済会 舞鶴 部隊帽子 (スコールドルキャップ) JDSみようこう</p> <p>New No.5</p> <p>3,200円</p> <p>在庫わずか</p> <p>カートに入れる</p>	<p>防衛弘済会 舞鶴 トートバッグ</p> <p>New</p> <p>1,500円</p> <p>在庫わずか</p> <p>カートに入れる</p>

(4) オリジナルキャラクターの開発と活用

漫画家「なぐも。」さんに依頼し、旧海軍の軍艦名の通りからイメージした描き下ろしのオリジナルキャラクターを制作した。

また、作成したキャラクターを活用し、「漫画グルメツアーリズム」としての展開を図った。



▲オリジナルキャラクターを紹介した新聞記事（「京都新聞」2019年2月27日）



▲舞鶴食べある紀行



▲オリジナルグルメメニュー

(5) 「艦これ」 イベントと連携した赤煉瓦パーク複合イベントの開催

2014年から実施されている「艦これ」オンリー同人誌販売会「砲雷撃戦！よーい!」の定期的な開催に際し、MCA内設置した「舞鶴鎮守府実行委員会」が関連イベントを実施してきた。過去8回の開催を通して、イベント全体がSNSや口コミで広がり、来場者が年々増加している。

2019年2月10日に開催された「艦これ」イベントは、「舞鶴赤煉瓦パーク複合イベント」として総来場者が約15,000人となり、これまでの蓄積の集大成のような形となっている。

◆「舞鶴赤れんがパーク複合イベント」の概要

実施日：2019年2月10日（日）

会 場：舞鶴赤れんがパーク一体

主 催：舞鶴鎮守府実行委員会（NPO 法人MCA内）

	イベント名	主催者	事業内容
1	砲雷撃戦！よーい! 47	同人誌即売会運営会社 SDF	艦これオンリー同人誌当日即売会の運営
2	真冬のグルメ祭	移動販売出店チーム	舞鶴市の冬期食材を調理した飲食売店の展開
3	赤れんがコスプレ祭	コスプレ参羽鴉舞鶴	コスプレ更衣室と写真撮影会の運営
4	駆逐艦きくづき写真展	菊月保存会	駆逐艦きくづき写真展の運営



← 会場の地図

○真冬のグルメ祭



○赤れんがコスプレ祭



○駆逐艦きくづき写真展

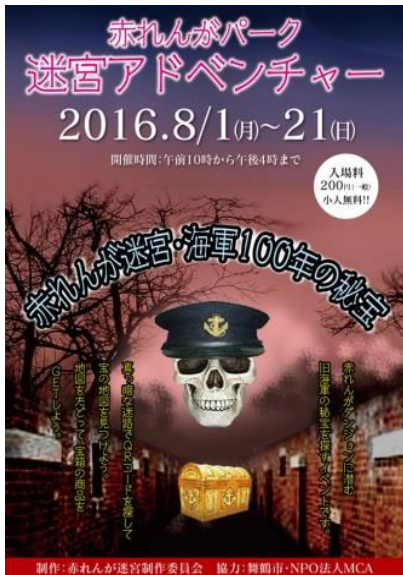


(6) 旧海軍をテーマにしたホラーハウスの開催

日本遺産およびイコモス認定の市民応援活動として、旧海軍をテーマにしたホラーハウスづくりに 2016 年から取り組んでいる。

期間中には、地元の「はまっこだるま祭」や「艦これ」イベントなど、多くの夏の行事が開催される。地元の舞鶴市民をはじめ、周辺自治体客や「艦これ」イベントで来訪した観光客など、夏休みの商店街の賑わいを図るための取り組みとして、周知されつつある。

また、開催にあたっては、空き店舗を活用することで街の活性化に寄与したり、舞鶴高専生や大学生を中心とした市民の協力で企画・実行することに留意している。



2016年



2017年



2018年

(7) ハード整備の方向性の検討

観光客のまちなかへの誘導および地元住民の商店街の利便性をはかるハード整備について関係機関との意見交換を重ねた。意見交換にあたっては、都市計画部局との意見交換はもちろん、舞鶴高専と連携した市民アンケートの実施を通して、地元自治会との連携も図った。2018年4月に策定された舞鶴市「都市計画マスタープラン」および「立地適正化計画」にその成果が反映された。

○舞鶴高専と連携した取り組み

* 東商連エリアの将来予想映像の作成 (2015年度)

* 市民アンケートの実施 (2016年度)

名称 : 「市民が考える東舞鶴中心市街地エリアのミライ」市民アンケート

対象世帯数 : 1,223戸 うち回答数 483件

調査範囲 : 「舞鶴市立地適正化計画」(平成29年12月)における東舞鶴地区の「居住誘導区域」および「都市機能誘導区域」

* 舞鶴実業会館を活用したまちづくり拠点の提案 (2016年度)



○「立地適正化計画」における浜団地・八島公園や、誘導する公共施設等の情報

【まちづくりの方向性】

- ① 駅南公園と高架下を活用した、交流・憩いのスペースの創出
- ② 地産地消を目的とした機能も取り込みつつ高度利用し、地域の学びの場の機能を付加
- ③ 浜団地・八島公園は、商店街活動の拠点となる広場空間として活用

【誘導施設】

- 教育機関のサテライトキャンパス
- 市民の生涯学習スペース
- 大型商業施設（既存の施設を維持）
- 市役所の市民窓口機能
- 市民活動・交流のためのフリースペース

◆居住誘導区域

【商業区域】

- ・まちなか居住誘導と一体となった商業区域の再構築
- ・高齢者を中心とした居住ニーズへの対応

【八島公園】

- ・拠点づくり：商業区域の活性化に取り組む人たちが活動できる広場空間

◆都市機能誘導区域

○地域の学びエリア

【教育機関連携施設】（教育機関のサテライトキャンパス）

- ・市内の高校・高専・専門学校や、市外の大学等の学生・教員が、地域と連携したまちづくり活動や研究活動のために共同で利用できる施設
- ・学生・教員と市民が交流し、研究や起業などのアイデアを生み出す場
- ・市外の大学と地域との連携拠点

【市民の生涯学習スペース】

- ・学生の自習や市民の生涯学習を支える施設
- ・図書館の窓口機能
- ・子どもから大人まで誰もが利用しやすく、過ごしやすい空間

○交流と憩いのエリア

<高架下>

【地域交流施設】（市民活動・交流のための空間）

- ・会合などができるレンタルスペース
- ・自由な目的で、気軽に集うことができる施設

【市役所の市民窓口】（出張所）

<公園>

- ・高架下フリースペースと連携して使える広場
- ・日よけや腰かけられる場所など、滞留できる工夫
- ・ミニマーケット等での活用を想定

(8) 多様なセクター・業種等とのネットワークの構築

本プロジェクトを通して、多様な方面とのネットワークを構築することができた。

特に、シリーズで実施した「地域創生×商店街×大学フォーラム」では、舞鶴市内はもちろん、他地域で活躍する多様な方々との連携をとるきっかけになったり、本プロジェクトでの成果を広く発表する機会となった。

〔1〕「地域創生×商店街×大学フォーラム」の開催

回	実施日	基調講演等のテーマ／講師・ゲスト
		<全体コーディネート> 杉岡秀紀さん／福知山公立大学地域経営学部准教授 京都府立大学地域連携センター副センター長
1	2016年3月14日	【舞鶴国際観光都市商店街化戦略会議の成果発表】 ○報告「舞鶴赤れんがまちづくり研究会」成果報告 西村豪志さん・山本大介さん ／京都府立大学公共政策学部4回生 ○「商店街創生支援プロジェクト事業」2016度の成果報告 ○パネルディスカッション【産学官連携の意義】 伊庭八郎さん／協同組合東舞鶴商店街連盟理事長 尾上亮介さん／舞鶴工業高等専門学校教授 小西葉子さん ／京都府 商業・経営支援課 商店街活性化担当課長
2	2016年11月11日	○基調講演 「空き家から始まる商店街の賑わい創出プロジェクト -nanodaの事例紹介-」 山田崇さん／長野県塩尻市職員、地域活性化伝道師 ○NPO法人MCAの事例紹介 ○パネルディスカッション【民学産公】 竹山 真さん／舞鶴市観光商業課 伊庭八郎さん／協同組合東舞鶴商店街連盟理事長
3	2017年2月13日	○基調講演「小さなお店や会社が地方創生の鍵」 秋元祥治さん／滋賀大学客員准教授 岡崎ビジネスサポートセンターOka-Bizセンター長 NPO法人G-net代表理事 ○パネルディスカッション 「商店街活性化と言わない商店街創生は可能か？」 矢谷明也さん／舞鶴市建設部次長 小松美香さん／宮津 mogmog オーナーシェフ 宮津おいしいグルメ開発研究所所長、舞鶴出身 名取貴春さん／アイシンクス不動産(有)代表

4	2017年6月5日	○商店街創生プロジェクト事業報告及び事業計画 ○基調講演「『三方よし』を実現する仕組みを作る」 島田昭彦さん／地域活性化プロデューサー 京都観光おもてなし大使、(株)クリップ代表取締役
5	2018年3月30日	○報告「市民が考える東舞鶴中心市街地の未来」 足立輝人さん／舞鶴高専 尾上・今村研究室 5年 ○基調講演「地域の発展と商店街の繁栄を目指して ～白川まちづくり会社～」 鈴木淳之さん／株式会社白川まちづくり会社、 白川まちづくり協議会、白川町商店街振興組合 ○パネルディスカッション 「民主導で考える地域（商店街）の未来」 尾上亮介氏さん／舞鶴高専 竹山 真さん／舞鶴市 藤原隆一さん／舞鶴東自治会連合会会長、中浜区区长 吉森則行氏さん／マルケイ三条店営業部長

○大学、高専等との連携

本プロジェクトのコーディネーターである杉岡秀紀さん（福知山公立大学）および尾上亮介さん（舞鶴工業高等専門学校）との連携により、研究活動の成果を本プロジェクトに生かすことができた。また、本プロジェクトの次なる展開を考察する材料としても大いに活用させていただいた。

各研究の成果は上記のフォーラムにおいて発表してもらい、広く地域の関係者に知らせることができた。

（例）

- * 「舞鶴赤れんがまちづくり研究会」の実績
- * 民泊・ゲストハウスの検討
- * 「市民が考える東舞鶴中心市街地エリアのミライ」市民アンケートの実施
- * まちづくり拠点の提案
- * サバイバルゲームの提案
- * 「艦これ」イベントと連携した取り組みのサポート 他

〔2〕フォーラムで検討したり各方面とのネットワークによって取り組んだ活動

① ハード整備の方向性の検討

観光客のまちなかへの誘導および地元住民の商店街の利便性をはかるハード整備について、関係機関との意見交換を進めてきた。都市計画部局との意見交換はもちろん、舞鶴高専と連携した市民アンケートの実施を通して、地元自治会との連携も図った。

また、フォーラムのパネラーとして舞鶴市建設部から担当者を招き、市としての検討内容を報告してもらおうと同時に、今後の地域像について公開の場において意見交換を行った。

② 地元自治会との連携

舞鶴高専と連携した「市民アンケート」の実施等を通して、地元の自治連合会との関係性を深めた他、藤原隆一さん（舞鶴東自治会連合会会長、中浜区区长）をフォーラムに招いて意見交換を行った。

③ 個店の活性化

➢ フォーラムでの検討

- 秋元祥治さん（滋賀大学客員准教授、岡崎ビジネスサポートセンターOka-Bizセンター長、NPO 法人 G-net 代表理事）をフォーラムのゲストにむかえ、商店街における個店の活性化について検討した。
- 上記フォーラムのパネルディスカッションにおいては、舞鶴出身の小松美香さん（宮津 mogmog オーナーシェフ、宮津おいしいグルメ開発研究所所長）をパネラーにむかえた。宮津での取り組みから舞鶴における個店活性化のヒントを得た他、京都府北部地域が連携した取り組みについても検討した。

➢ 御朱印帳の活用したスタンプラリー

- 「アニメ聖地 88」の選定にあわせて作成した「軍艦通り三十三ヶ所巡り 御朱印帳」は、商店街内の各店舗を札所として位置づけ、それらを巡るスタンプラリーであることから、これを活用して観光客のまちなかへの誘引を図った。



▲スタンプラリーのグッズ

➤ おみやげ館と地元商店街等との連携

海軍コンテンツを活用したオリジナルのお土産をおみやげ館以外の店舗で販売したり、地元の人気店の商品をお土産館で販売したり、相互にネットワークを図ることで個店の活性化に寄与した。



▲地元ホテルに設置されたお土産品販売コーナー



▲お土産館で販売している地元商店街の人気商品

④ 空き店舗対策

➤ フォーラムでの検討

- アイシンクス不動産(有)をはじめとする空き店舗対策に取り組む地元の不動産会社の活動状況について情報交換を行った。
- フォーラムにおいては、山田崇さん（長野県塩尻市職員）をゲストに招き、東舞鶴商店街における空き店舗対策について検討した。

➤ 民泊・ゲストハウスの開設にむけた検討

- 民泊・ゲストハウスの候補地について、舞鶴市や不動産業者等から情報を得て、いくつかの可能性を検討した。
- 舞鶴高専と連携し、八島商店街事務所をケースに、空き店舗を活用した民泊・ゲストハウスの実現にむけて検討した。
- 検討を重ねた結果、リニューアルに関する費用、制度、担い手等においてクリアしなければいけない課題が多いことが明らかになり、当面は実現不可能であると判断した。しかし、舞鶴市が国際的な観光都市として発展していくためには、ホテルだけでなく、滞在型の宿泊施設が必要であることから、引きつづき、

民泊・ゲストハウスにふさわしい物件を調査すると同時に、候補案件が見つかった際には具体化にむけて検討を進めていくこととなった。

⑤ まちづくり会社の検討

- 商店街の担い手の高齢化がしていく中で、次世代における運営体制について検討を重ねてきた。
- 京都府および「商店街創生センター」等の協力により、他地域における「まちづくり会社」の事例を紹介してもらい、舞鶴で実施する場合によりよい組織形態について検討した。
- フォーラムにおいても、鈴木淳之さん（株式会社白川まちづくり会社、他）をゲストに招き、「白川まちづくり会社」の取り組みについて紹介していただいた。

⑥ 「海の京都」無人島サバゲー企画

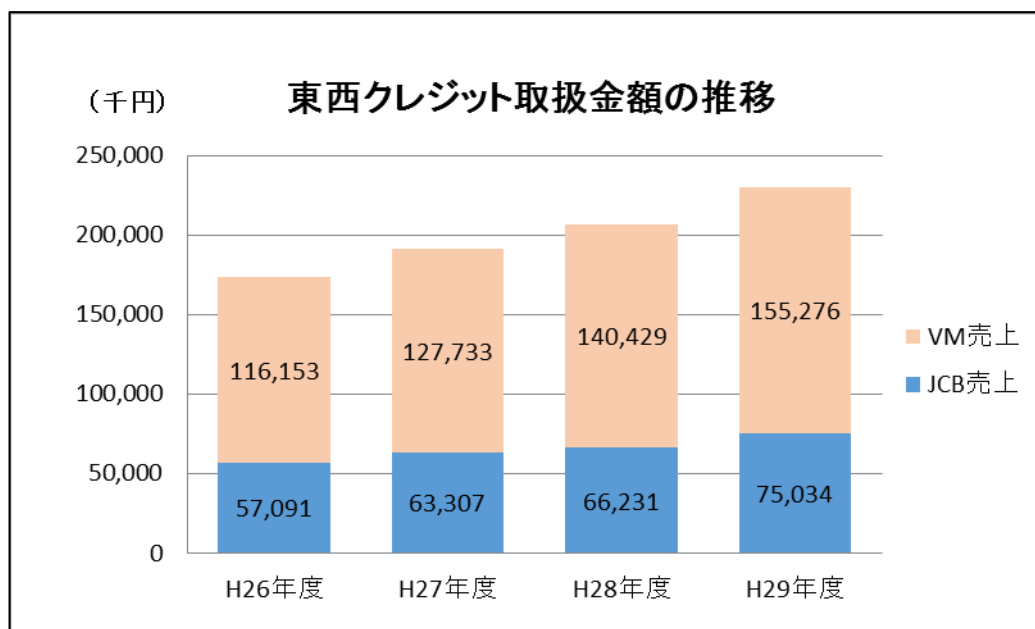
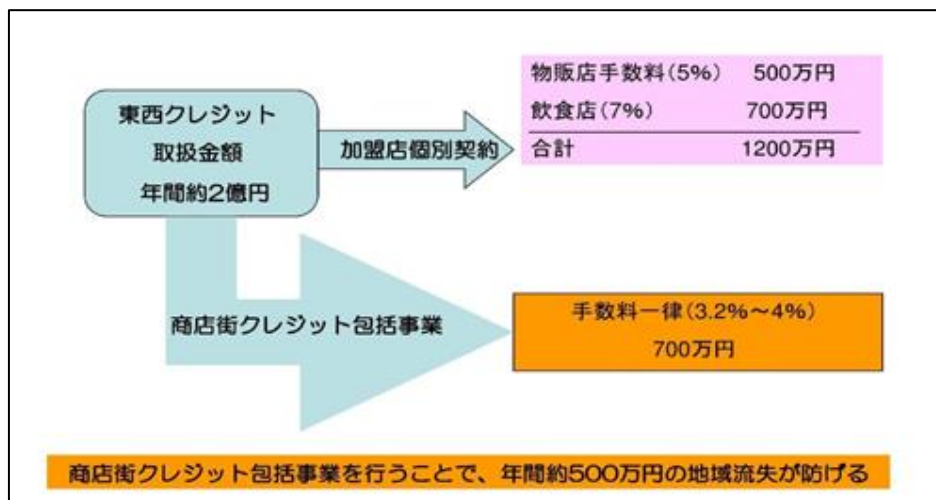
- 地元の資源や海軍関連の歴史を生かした「サバイバルゲーム」の実現にむけて、各方面と意見交換を重ねてきた。
- 場所の選定においては、対象となるエリアを管轄している近畿財務局や舞鶴市と実現可能性にむけて検討を行った。
- 事業化にむけては、舞鶴高専学生によるアイデアなどを参考にしながら、具体的な内容を検討している。



⑦ 商店街クレジット包括事業の推進

- リンクカードを軸とし、西舞鶴と連携して東西での商店街包括事業（実施主体：合同会社 TASK カード事業支援センター）を推進してきた。
- 東西クレジットの取扱金額は年々実績を伸ばしており、2017(平成 29)年には、2億 3000 万円以上となっている。
- 今後は、地域の金融機関とも連携し、キャッシュレス化に対応した体制を整備していく予定である。

<東西舞鶴の商店街包括事業実績（合同会社TASKカード事業支援センター）>



	合計売上	合計前年比	うちJCB売上	JCB比率	うちVM売上	VM比率	VM前年比
H26年度	173,243,863	100%	57,090,957	33%	116,152,906	67%	100%
H27年度	191,040,301	110%	63,306,806	33%	127,733,495	67%	110%
H28年度	206,660,256	108%	66,231,358	32%	140,428,898	68%	110%
H29年度	230,309,951	111%	75,033,664	33%	155,276,287	67%	111%
H30年度							
合計	801,254,371		261,662,785	33%	539,591,586	67%	

⑧ ビジネスホテルの誘致

- 商店街周辺への民間投資を誘発する上で、八島公園および周辺地域の整備が長らく検案事項としてあがっていた。こうしたハード面での計画とあわせて進めてきたのがモナコ会館跡地のビジネスホテルの誘致である。
- 同ホテルの検討にあたっては建設者であるマルケイとも連携をとり、「商店街創生プラン」の推進も見据えた計画づくりを進めてきた。フォーラムにおいても、吉森則行氏さん（マルケイ三条店営業部長）をゲストに招き、まちづくりとの連携について発表していただいた。
- 商店街としても、ホテルの建設を応援する旨、市に文書を提出するなどし、2018年3月に着工することとなった。

⑨ スーパーマーケットの誘致

- 行政サイドの働きかけにより、旧マイコム再生のための事業として食品スーパーの誘致の検討を行ってきた。しかし、諸事情により旧マイコムでの開店は困難であるとの判断から、いまだスーパーマーケットの開店は実現していない。
- 地域の高齢化が進む中、より身近なエリアでの日常的な買い物ができるスーパーマーケットの開店は、地元でも根強い声として要望があるため、引きつづき場所を含めた検討を進めていく。

4. 今後にむけて

○本プロジェクトのネットワークを生かした展開

本プロジェクトの実施にあたっては、多種多様なセクターとのネットワークを築くことができた。様々な取り組みの過程においては、思わぬ相乗効果・波及効果などが生まれ、そこから新たな方向性が見いだせたことは少なくない。

今後も地域の各団体をはじめ、企業・行政・専門家等、多くの人・団体の協力のもとで各事業・プロジェクトを推進し、より大きな輪を築き上げていきたい。

○海軍、歴史、アニメ等各種コンテンツの活用

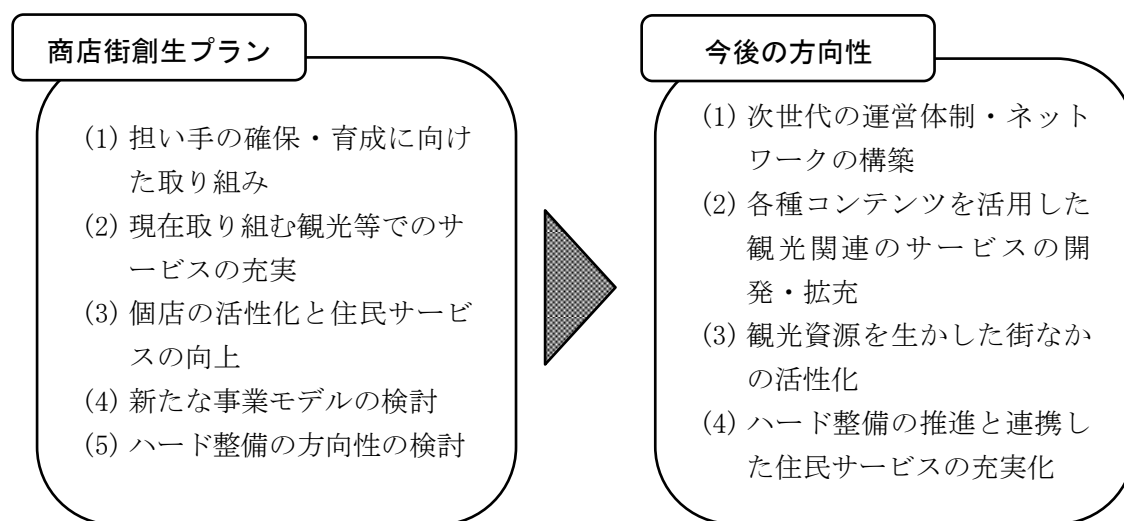
本プロジェクトの実施期間においては、艦これイベントの盛り上がりが顕著であった。本プロジェクトを核として、こうした動きに対応した取り組みを展開したことがイベントの盛り上がりにつながり、また、イベントの盛り上がりが本プロジェクトを活性化させるという相乗効果が生まれた。

これらの過程において、海軍や地域の歴史等を活用した取り組み、そこから派生した各種プロジェクト、イベント、コンテンツ開発等、多数の実績を残してきた。今後はこれらを活用し、観光客を呼び込むだけでなく、日常的な地域での取り組みに展開したり、周辺地域との連携に活用したり、多方面へと発展させていく。

○運営体制の強化

本プロジェクトは、当初は委託事業として始まったが、2年目の2016年度から補助事業として実施されることとなった。委託事業であれば、事務局機能の整備もあわせて推進することができたが、補助事業に変更になったため、事業の実施に偏重する結果になったことは否めない。

一方で、継続的な運営体制の整備については検討を重ねてきた。また、本プロジェクトを通して多くの実績を培ってきたことから、これらの成果を踏まえて、新たな推進体制を整備・強化していきたい。



(1) 次世代の運営組織・ネットワークの構築

- ▶ 商店街の次世代を担う体制について、引きつづき検討が必要である。NPO 法人 MCA は、現状においてはソフト事業の企画立案・実施を担っているが、今後はハード面を含めた「まち全体」をトータルにマネジメントする組織のあり方を検討していく。
- ▶ 当面は、「まちづくり会社」の設立を念頭に、各方面との情報交換や具体化に向けた準備を進めていく。また、京都府から提案があった CMO の利用も含めて、関係者の間で情報の共有を図っている。
- ▶ 本プロジェクトでできたネットワークを軸に、より多様なセクター・業種等との連携を図りながらまちのあり方を検討し、事業を展開していく。

<参考事例>

組織形態	典型事例	特徴
第三セクターの株式会社	○京都府福知山市 福知山まちづくり(株) ○兵庫県丹波市 (株)まちづくり柏原	市と民間の出資によって設立。公益性と企業性を併せ持つ。
共同出資の株式会社	○京都府福知山市 福知山フロント(株) ○鳥取県米子市 (株)法勝寺	商店街と地元有志が行政の支援を得つつ設立。小回りが利くため、スピード感のある事業展開が可能。
一般社団法人	○兵庫県篠山市 一般社団法人ノオト	登録のみで設立が簡単。剰余金の分配ができない。資金調達がしにくいという課題がある。
NPO 法人 (特定非営利活動法人)	○神戸市兵庫区 新開地まちづくり NPO	正社員が 10 人以上存在していることが必要。設立認証の申請書作成や審査など、設立に時間がかかる。
LLP (有限責任事業組合)	○大阪府富田林市 LLP まちかつ	構成員課税が適用されるため利益をシェアする共同事業に適しているが、事業主体となるには税務処理等が難しい。

出典：「(仮称)笠置まちづくり会社」設立準備会資料（提要：京都府）

(2) 各種コンテンツを活用した観光関連のサービスの開発・拡充

- リニューアルオープンした「海軍御用達おみやげ館」を、商店街における地域の拠点として定着させる。
- 海軍コンテンツを使ったオリジナルキャラクター等を活用し、引きつづきお土産品やグッズの開発、広報ツール等への展開を図っていく。
- 「艦これ」イベントとタイアップし、地域全体として受け入れる体制を拡充していく。
- 無人島サバゲー企画等、検討が進んでいる事業を実現させる。
- アニメツーリズム、漫画グルメツーリズム等、今後も実験的な取り組みに挑戦すると同時に、改善を図りながら継続的に取り組む体制を整備していく。
- 大河ドラマ「麒麟がくる」の放送も視野に入れ、地域の歴史を生かした新たなコンテンツの開発を進めていく。
- 周辺自治体とも協力し、京都府北部連携を進める中で、観光関連サービスの充実化を図っていく。

○地域の資源・歴史を生かした「海の京都」無人島サバイバルゲーム（案）

青少年の島 TOSHIMA 再開発計画

NPO-MCA

はじめに

京都府舞鶴市には古くから船隠しと呼ばれた入江があります。

リアス式地形から成り天然の要塞とも云える舞鶴湾には、入江の入り口を閉ざす形で「戸島」と呼ばれる無人島があり、外洋からの高波を防ぎ穏やかな内海を造り上げています。

その戸島が浮かぶ舞鶴湾の地形は大敷網の形状になっており天然の漁場でした、かつては民も住み農耕や漁業の営みも行われて栄えましたが、その湾内の静かさから日本海軍の軍港として舞鶴鎮守府が措かれ軍事拠点として整備され民間が立ち入れない島になってしまいました。

終戦後は船での渡航手段しか無い不便さから人の住まない島になっています、少し前までは青少年の島としてキャンプや合宿に利用された時期もありましたが今ではそれも無くなり忘れ去られた島となっています。

我々は「戸島」を現代風に活用して在りし日の営みを復活させる為の勉強会を開き、やがては舞鶴リゾートアイランドと呼ばれるような夢の島になって欲しいと願い、楽しい集客イベントを企画して話題を馳せたいと考えます。

実施計画案

先頃、地元舞鶴の国立高専が第15回全国高専デザインコンクール釧路大会で「舞鶴市戸島でのサバイバルゲーム提案」で優秀賞を獲得しました。

この夢のある提案は休眠国有地の有効活用と特定ルールを基に繰り広げられるゲーム感覚を取り込んだ参加型の新しい体験イベントとして緻密に計算されたプレゼンが評価された事だと思われま

我々は彼らの提案に基づく企画の実践を図る為に、あらゆる方面からの協力を煽ぎ実現に向けた実行委員会を立ち上げ体感賑わいイベントに仕立て上げて、山陰ジオパークの素晴らしさを全国に発信したいと思います。

企画内容

サバイバル脱出ゲーム「第1回 TOSHIMA 脱出作戦」

戸島の拓けた場所に巨大な迷路を常設し、その東西に陣地(作戦本部)を設け敵陣までの迷路をくぐり抜けて敵陣ドアの鍵を奪取して迷路外に出るゲーム。

この夏、僕らは冒険に出る!! 「無人島 TOSHIMA 作戦」

○キャスト

舞鶴高専 ONOE LABO

福知山公立大学 杉岡ゼミ

ポリテクカレッジ舞鶴

京都府立東舞鶴高校

京都府立西舞鶴高校

近畿財務局舞鶴支局

京都府中丹振興局

京都府舞鶴市

青少年の島「戸島村長 OB 会」

TOSHIMA 作戦 実行委員会

○超リアル脱出ゲームイメージ

イースタンチーム VS ウェスタンチーム

白帽子 5 人(女性 1) VS 黒帽子 5 人(女性 1)

東軍西軍帽子取りゲーム

帽子を取られたら動作停止する

敵陣フラッグに付いた鍵でドアを開け脱出せよ!!

陣地フラッグの旗手(大将)は女性とする

トリック トラップ ビック メイズ

謎解き 罠 巨壁 迷路

○サバイバルキャンプ

ベーステント大と各自就寝テント

各チーム交流会

サバイバルキッチン

アフターイベント

島内夜間パトロール警備隊

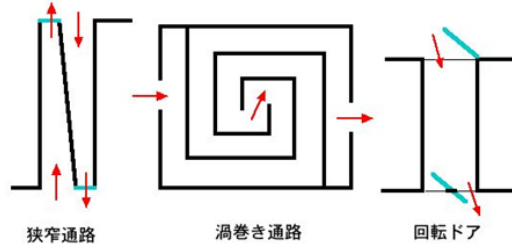
○スーパーメイズ(巨大迷路)の制作

資材について (略)

設計図について

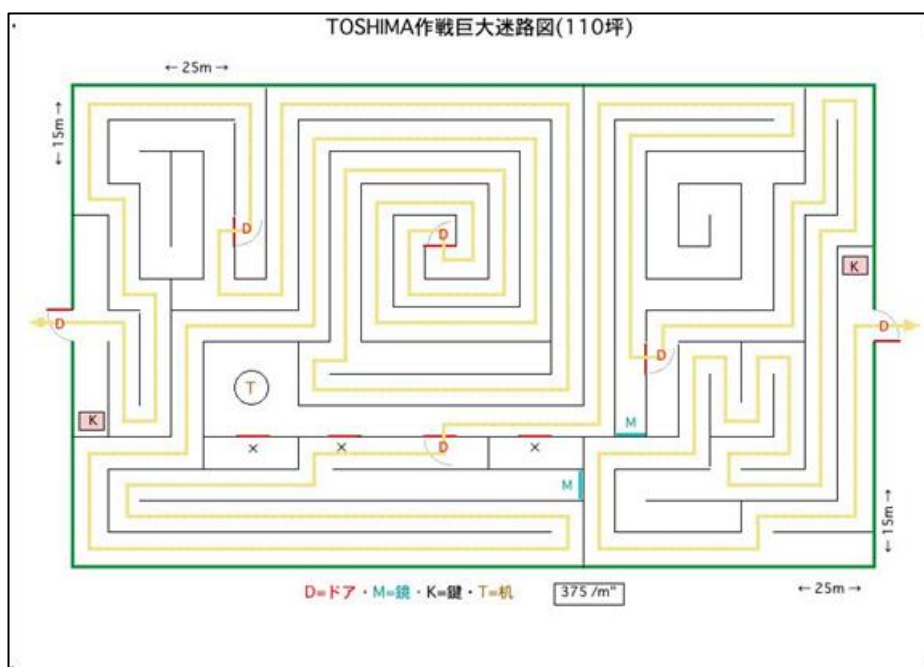
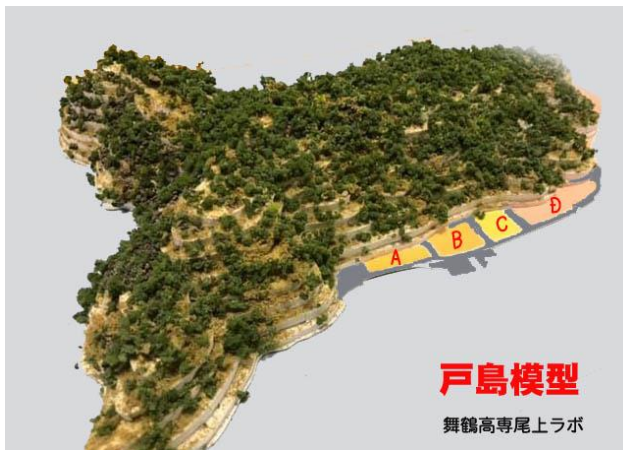
方眼紙に巨大迷路を製図する、ひとマスを 900×900 に見立てる。

トラップ～袋小路・ダミードア・狭窄路・渦巻き迷路・など
 トリック～回転壁ドア・数字合わせ鍵のドア・上下開閉ドア・など



- 建設作業について (略)
- 参加者募集・SNS 情報発信・マスメディア告知

<参考資料>舞鶴高専 Onoe Labo 生徒による戸島模型



○アニメによるまちづくり（案）

地域想造計画案（アニメによるまちづくり）

NPO-MCA

- 考1 まちづくりの新たな手法として、バーチャルリアリティを用いて他市には類を見ない妄想都市ストーリーを造り上げ話題を馳せる(帝都舞鶴)
- 考2 史実と空想を取り混ぜた新たなアニメストーリーを発表する事で、個々の想像力を掻き立て都市伝説に繋げる(風水都市・ロシア病院)
- 考3 目に映るものに依存せず人々が錯落し易いキーワードを用いて精神誘導を行う(ジャポニズム・オカルティズム・シャーマニズム)
- 考4 特定固有資産に擬人化擬態化を施し、若者の好奇心を煽るコンテンツに仕立て上げる(赤れんがゴーレム・波切不動明王・馬頭観世音菩薩)

上記のように架空の観光コンテンツを造り上げ、現在舞鶴市が保有し実践する有形資産観光とは別の切り口で、定住者や来訪者の拡大を図り地域創生の発展を促す事業を計画致します。

提案の基礎

舞鶴市は維新150年を経て栄えある軍需史があり、海軍により教育、文化、芸術、産業、工業、商業、社会秩序などが市民に隔てなくもたらされました。

この特異な歴史背景での街の有り方が世界記憶遺産の取得、日本遺産の取得、イコモス褒賞の獲得、アニメ聖地の登録などへ繋がっています。

当然の事ながら各登録を観光コンテンツとして売りにすべきですが一定偏ったターゲットへの働き掛けしかなされていません、あらゆるジャンルへ幅広いアピールを行うにはあの手この手と切り口を変化させたアイテムが不可欠です。

舞鶴市民としてそれぞれの役割を担う中で行政に出来る事、組織に出来る事、企業に出来る事、民間に出来る事があり各々がコラボする事で相乗効果が得られるなら前向きに取り組むべきであります。

提案の概要

予てより我々NPO-MCAでは国家政策のクールジャパン成長戦略の項目にある映像音楽アニメゲームコンテンツの発展に興味を持ち、タイミング良くリリースされた舞鶴鎮守府をステージとした kadokawa のネットゲーム「艦隊これくしょん」を利用させていただき市民イベントを開催し続けて参りました。

現在では全国の市町村でアニメやゆるキャラなど過去には想定できなかった観光コンテンツが目白押しで一定の成果を挙げて観光経済の増大に繋がっております、舞鶴市もアニメの聖地としてランクインしていますがその事柄を旨く活用できておりません、最近では各市町村がこぞってオリジナルコンテンツの確立に取組み舞鶴市にも流れが求められる時期に達していると思われれます。

提案の詳細

MCAでは商店街の活性化を図るため旧海軍の勅命下に建造された軍艦の名称がつけら

れた道路に着眼して、市内ウォッチングを促す為の御朱印帳と散策懐古地図を制作し観光客や市民に販売しております。

その制作段階に於いて将棋の目に区分けされた条割りや方位の取り方に平安京を模した天皇神道の意思が込められている事に気づきました、帝を中心とする「帝都」の建設が新舞鶴市として執り謀られたと思われます。

当時のままで大きく変貌せず残る東舞鶴市街地を風水方位盤になぞらえると、北位(玄武・天皇玉座)には東山巨大塚があり、東位(青龍・清めの川)には与保呂川があり、西位(白虎・繁栄の湧き水)には寺川がある、そして南位(朱雀・異国に向かう大道)には東舞鶴駅があります。

また道教の太極図を合わせると表鬼門(艮の方角)には浮島神社が祀られ魔を封じ裏鬼門(坤の方角)には魔祓いの出雲神社があります、更には各軍艦通りの起点終点の何れかに社寺仏閣が建立されている事も軍部のシャーマン的な影響が感じられます。

過去の戦争に於いて神頼み的な思想があった事を公的機関がもっともらしく語るのはタブーである事から、我々はバーチャルストーリーとしての伝奇「舞鶴奇譚」をアニメコンテンツに仕上げる事で社会現象を巻き起こしたいと思います。

地域活性の糸口がアニメ文化で広がる事を基軸に措いて、主人公の容姿やイメージを万人向けに作り上げ舞鶴市のキャラクターに起用して発展的な流れを発生させたいです。イメージキャラ → 漫画ストーリー → アニメ映画 → CD・DVD 発売 → 実写映画化 → アニメ聖地化 → 土産物商品化 → 国内外観光集客などを目標としてアニメコンテンツを輸出していきたいです。

○「艦これイベント」等これまでの経験を生かした NHK 大河ドラマの放送との連携 (案)

田辺城武家祭(仮称)企画案



企画概要(各独立企画を同日程、同エリアに集結する)

2020 年には舞鶴市に縁がある戦国武将明智光秀が主人公の「麒麟がくる」と云う NHK の大河ドラマが放送されます、これまで大河ドラマ放映に伴うロケ地や物語の舞台となった地域には多くの観光客が訪れ一定の活性化や経済効果が立証されております。

田辺城主(舞鶴城)を勤めた細川忠興の正室が明智光秀の娘ガラシャ(お玉)である事から、必ずや光秀ゆかりの地として田辺城(籠城逸話)が劇中に登場すると思われ舞鶴市にも大きな期待が集まるところであります、このムーブメントを迎える序兆事業として本企画(田辺城武家祭)を提案します。

集客企画(1) (武家祭実行委員会)

2019 年夏頃に田辺城(細川藩)を広く周知させるため、田辺城敷地内(舞鶴公園)に陣幕やのぼりで囲った簡素な本陣(仮設ステージ)を設け、戦国時代の仮装や剣舞、ダンスや音楽ライブを取入れた複合型イベントを企画いたします。

陣太鼓やホラ貝等の鳴り物をアトラクション開始の合図としたり、平場で大道芸的なパ

パフォーマンスを展開して、京都太秦映画村のような城下町演出が仕込めれば楽しい会場になると思います。

集客企画(2) (福知山 Tan tan ・ 京都一夢庵)

話題性を助長する流れに DMM.com が運営するネット育成ゲーム「刀剣乱舞」が若者を中心に広がりネットユーザーは 120 万人にも及ぶ、ゲーム内容は「日本刀」を美剣士に擬人化させ女性ファンの心を掴んでブームを起こしている、

既に舞鶴で実績を上げている「艦これ」企画は男性ユーザーに支えられており「刀剣乱舞」は女性ユーザーに支えられていると理解していただきたい。

キャラクターに細川忠興の名刀「歌仙兼定」が登場している事や細川幽斎の籠城秘話で登場する「古今伝授の太刀」(国宝)が田辺城に縁を残し注目されるので「刀剣乱舞」の同人即売会を西市民プラザで開催すべく運営団体に貸館招致して独立イベントを同日開催していただき全体集客を引き上げたいと思う。

集客企画(3) (農林課 ・ 水産課 ・ 観光課) (移動販売業者 ・ 飯テロ軍団)

海の京都グルメ屋台イベントを舞鶴城公園内で開催して多くの来場者の空腹を満たさず、統一テーマを「籠城めし」として各店舗が地場食材を使用したオリジナルメニューを開発しておもてなしをおこないます。

飲食売店以外にも産地食材や観光土産の即売テントを設けて舞鶴の特産物の周知につなげたいと考えます。

集客企画(4) (文化振興課)

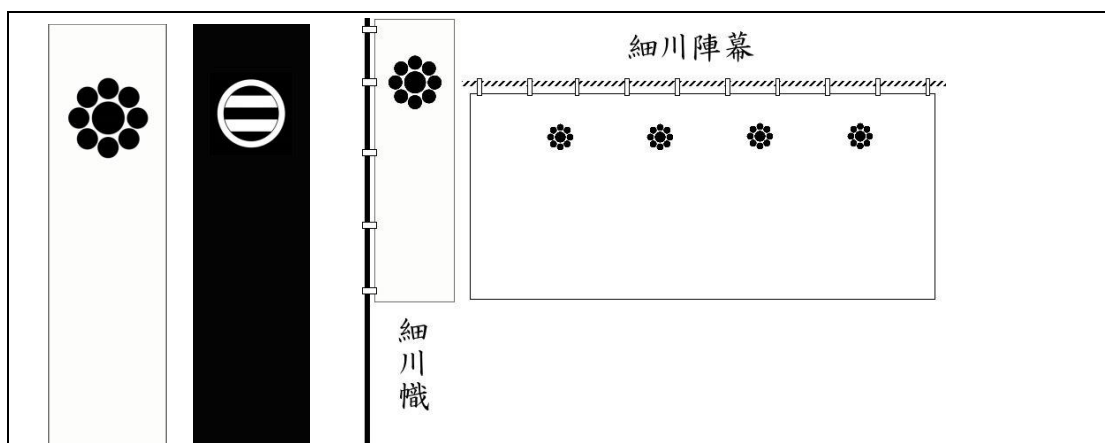
田辺城資料館の特別企画展示会を開催する、NHK 大河ドラマ「麒麟が来る」の告知や関ヶ原もう一つの合戦「田辺籠城秘話」などの企画展を行い、舞鶴市のファンを定着化させてリピーターにしたり、ブロガーが注目しそうな写真映えするエリアを設け SNS 発信で集客をあおる気運を高めていきたい。

集客企画(5)(北近畿鉄道株式会社)

田辺城公園の遊具エリアでミニ SL を走らせる鉄道イベントを同時開催してキッズプレイエリアを充実させる。JR の線路付近の会場なので幕末・明治維新・文明開化・汽笛一声などの歴史背景も取り込んだこじつけのストーリー展開にしてみたい。

集客誘導(陣幕・幟は外注する)

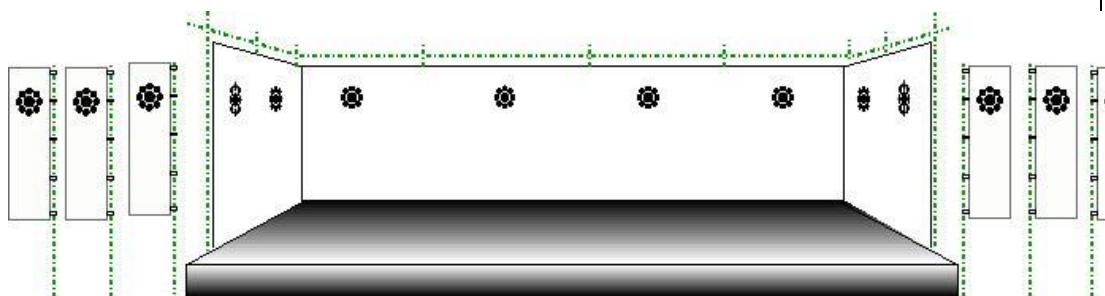
田辺城公園と舞鶴西市民プラザの 2 会場を結ぶ導線の路側に細川陣幕と幟を配して来場者誘導をはかり両会場を孤立させない。(500m を補う)



メインイベント会場 (田辺城公園・楽市楽座の城下町)

田辺城内に本陣を構える!! を意識したステージを設営する、建設資材は舞台部を 30cm 程度の平台(コンパネ)で隔離を図り周囲を陣幕と幟で簡素に演出する、またステージ以外の城下町演出も竹材・タルキやごさ・むしろ・よしず・すだれ等の安価な資材での制作を図る。

陣幕や幟のデザインは田辺城を象徴する家紋もしくは細川家の家紋とし、次年度開催にも使用可能にする事と他イベントにも転用できうるデザイン形状にする事が望ましい。



サブイベント会場 (舞鶴西市民プラザ)

市民プラザ 1 階ではメイン会場と連動した形で NHK 大河ドラマ招致の気運を盛り上げ、着物ショー・花嫁衣装展示会・レンタル着物運営など(事業者)や武家コスプレクローク(実行委員会)など和装文化のエリアとして展開したい、開催日をクルーズ船の寄港日に合わせる事が出来たら外国人観光客をメインおよびサブ会場に呼び込む努力をして、日本の文化を体感していただけるイベントに仕立て上げたい。

市民プラザ 2 階イベントホールを貸し館事業の一環で、同人運営業者に貸与し同人誌即売会「刀剣乱舞」を自主開催していただく、この同人集会には多くの参加者が他府県より訪れるのでイベント全体の集客につながり尋常ではない経済効果が見込まれます。

刀剣乱舞の催しにはゲーム内のキャラに扮したコスプレイヤーの参加者も数多く戦国武将や美剣士のコスプレ更衣室をプラザ 1 階に設えコスプレ撮影会を田辺城周辺と定めたら誘導路を移動するためイベント全体を華やかに彩ってくれると思われ、同時に SNS でロケーション情報がループ発信化するので爆発的に周知され地域の活性化につながると思われます。

(3) 観光資源を生かした街なかの活性化

- 2018年3月に商店街内に着工するビジネスホテルと連携し、(2)における観光資源を生かして、街なかへの来訪者が増加するように誘導策を検討していく。
- おみやげ館と連携し、商店街の各個店においても観光資源と関連したサービスの提供・充実化が図られるようにサポートしていく。
- 「新軍艦通り 33 箇所巡り」や、オリジナルキャラクターを活用した「舞鶴食べある紀行」を活用し、街なかを訪問する観光客むけのサービスを充実させる。
- 「艦これ」イベントに連動して開発されたグルメ新メニューなどが、イベント以外の時期でも街なかで飲食できるなど、イベントと連動した商店街でのサービス提供を促進していく。



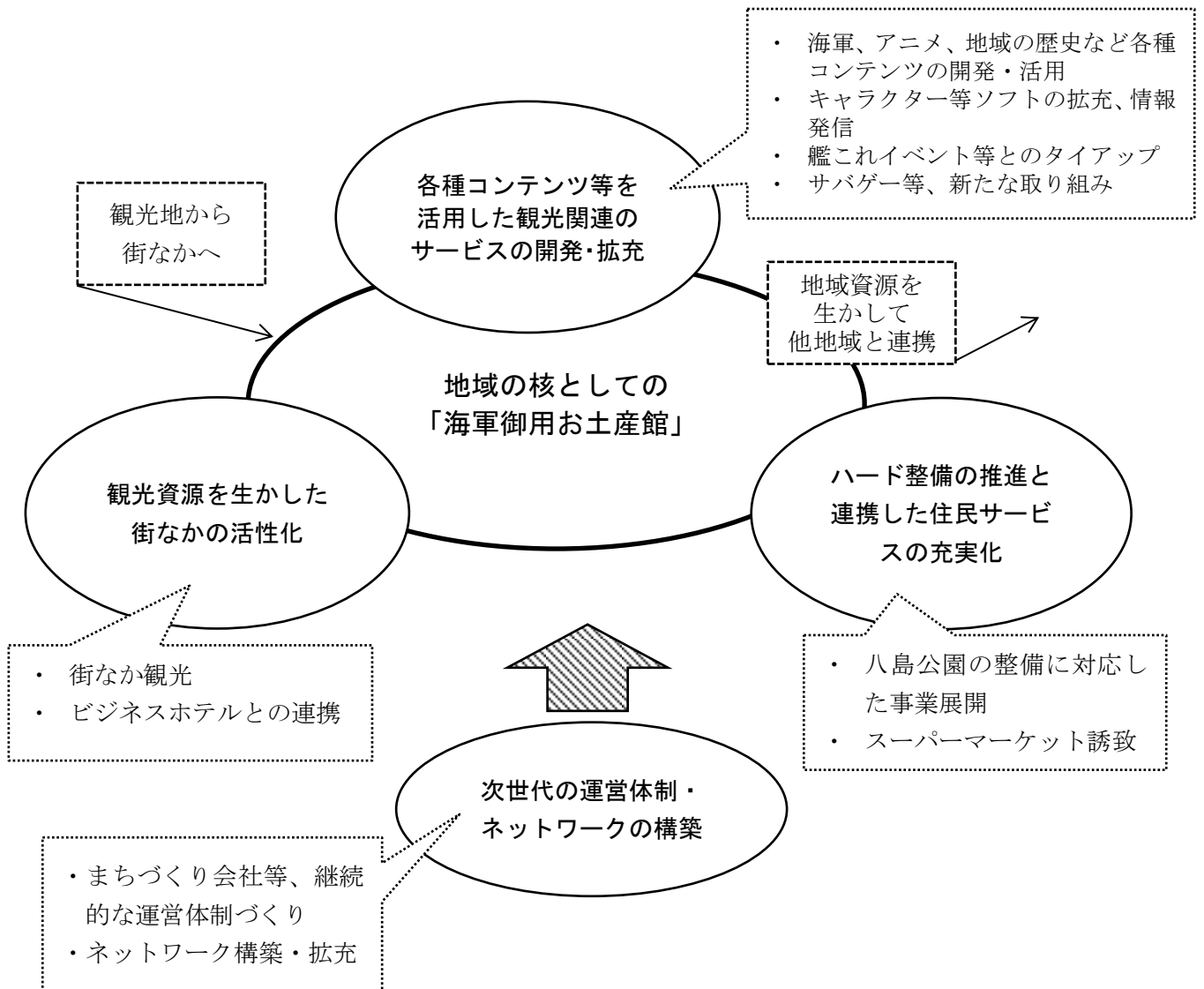
▲艦これイベントでのグルメメニュー



▲「万願寺唐辛子ちくわ詰めフライ」の感想を投稿した艦これイベント参加者のツイッター

(4) ハード整備の推進と連携した住民サービスの充実化

- ▶ 2018年4月に策定された、舞鶴市「都市計画マスタープラン」「立地適正化計画」等に基づき、当該エリアのハードが整備されていくことにあわせて、地元住民へのサービスの充実化を図る。
- ▶ 新たな整備が決まっている八島公園を活用し、商店街としての新たな展開を検討していく。各方面と連携し、街なかへの民間投資が促進されるように継続的な協議を行っていく。
- ▶ 地域の高齢化が進む中、より身近な地域で日常的な買い物ができるように、引きつづきスーパーマーケットの誘致を進める。



参考資料（2018年度委員会の記録）

第1回委員会

日 時：5月17日（木） 19：30～

場 所：旧マイコム（5条立体駐車場 1F スペースⅡ）

配布資料：

地域想像計画案（アニメによるまちづくり）

舞鶴アニソンミュージックフェス企画

舞鶴鎮守府アニメコンテンツツアー企画案

「海軍ホラーハウス」企画書

天理市ポイントに関する資料

検討内容：

- （1）新海軍御用達お土産館アンテナショップ&どこでもギャラリー
にぎわい回復事業&どこでもギャラリー事業
- （2）第7回舞鎮「艦これ」企画案
- （3）地域創造計画案、アニソンライブ、舞鶴鎮守府アニメコンテンツ等
- （4）2018夜の市
- （5）海軍ホラーハウス 2018
- （6）新規お土産開発、キャラクター33 開発
- （7）「海の京都」無人島サバゲー企画
- （8）旧マイコム食品スーパー
- （9）ビジネスホテル誘致

第2回委員会

日 時：6月29日（金）19:30～20:30

場 所：海軍御用達お土産館

出席者（敬称略）：

（商店街）商店街連盟：伊庭（東商連）、谷川（八島）

MCA：塩見、田口、松井、土田

（行 政）舞鶴市：竹原（観光商業課）

京都府：濱田、神崎、江種（商業・経営支援課）、

鵜飼（中丹広域振興局）

近畿財務局：深瀬

（その他）福知山公立大：佐々木、蒲生

協働研：片岡（計15人）

配布資料：日本遺産応援事業「海軍ホラーハウス」内覧会の案内

<議事内容>

1. 本年度及び次年度にかけての戦略会議

（1）自己紹介<略>

（2）今後に向けて

土田／継続的な財源の確保が課題になっており、検討を進めていきたい。

2. 海軍ホラーハウス内覧会

松井／

- ・実業会館のところで「海軍ホラーハウス」を開催すべく準備をしてきた。明日(30日)から夜の市と連動してオープンする。
- ・「ロシア病院」は旧海軍舞鶴鎮守府第三火薬廠のことで、インターネットで話題になっている。
- ・デジタル社会において、アナログでキッチュな仕掛けを施していることが特徴。特に中高生に受けている。
- ・昨年は2500人を動員。今年は3000人が目標。Facebookやtwitterでは、25000ぐらいのヒットがある。艦これイベント参加者の間でも話題になっている。

3. 事業実施及び進捗状況報告について

（1）新海軍御用達お土産館アンテナショップ&にぎわい回復事業&どこでもギャラリー事業

土田／新しいお土産館がオープンした。松井さんの奥さんがいらっしゃることもあって、地域の中でいい働きをするようになってきている。お土産が増えれば売上もあがるだろう。次の艦これイベントでもヒットするのではないかな。

松井／「どこでもギャラリー」事業の一貫で2月にスタートした。オープン時には旧海軍保管庫の所蔵品を展示した。その後は自主運営している。現在は元海上自衛隊の石原さんの絵を展示中で、今年度はテーマを変えて行う予定。その他、舞鶴市出身の田主誠さんの版画展、染色家・岡田明彦さんの展示など企画中。自衛隊の生徒が妻の手伝いをしてくれるようになり、コミュニケーションの場にもなっている。

土田／「どこでもギャラリー」は京都府文化政策課の事業。今年度も継続予定。

(2) 第7回舞鶴「艦これ」企画案

田口／7月21日(土)に「砲雷撃戦！よーい四十二戦目！」が開催されるにあたり、前夜祭を五条公園で実施する予定。秋葉のイメージでアニソンライブなど計画している。市内のホテルは予約でいっぱい。

21日は「舞鶴・海上自衛隊サマーフェスタ」も開催されるので、全国から約10000人が集まる見込み。これらの観光客を商店街に誘導するように準備を進めている。

松井／これまでは艦これイベントは赤レンガのところで開催されてきたが、場所が狭いこともあって今年は「舞鶴市立中総合会館」で実施予定。

艦これイベントにあわせての屋台の出店は、既存の飲食店では足りないだろうということで始まった。当初は一般的なフードを出していたが、何度も来ている人は飽きるだろうと思い、昨年はロシア料理を出したところ評判がよかった。「ロシア病院の謎」はそこから来ている。他都市と違うアプローチが必要だ。

昨年の前夜祭は175人の参加だったので、今年はそれ以上になるだろう。その人たちが連泊すると想定されるので経済効果は大きいと思う。

土田／アニメにおけるコンテンツツーリズムは経済効果があることは実証されているが、クリエイターや仕掛け人が地方都市に移住している。舞鶴にも来てもらえるようになりたい。

(3) 地域創造計画案、アニソンライブ、舞鶴鎮守府アニメコンテンツ等

松井／艦これのポスターを配布するために「ふじつ温泉」に行った際、周囲に何もなかったので音楽ライブの会場や吹奏楽の合宿場などに活用できるという話題になった。話が具体化する際は協力して欲しいとの依頼があった。

土田／ウィラーの方と話していると、艦これのファンだった。ラッピング電車を走らせたいとのこと。

松井／舞鶴がアニメ聖地に選ばされたことにより、年間契約を結んで角川が舞鶴市のコーディネートをするとのこと。その一環として、ラッピング電車の話が出ている。また年間契約や著作権に関しては、かなり破格の値段で交渉が進んでいるようだ。

(4) 2018夜の市

土田／50～60年ぐらいやっている取り組み。暴走族対策として露天商が入れなくなった時期もあって、市民による自主運営で行ってきた。初夏の風物詩として定着している。

松井／艦これがきっかけで、新たな自主グループができています。次は露店のビストロ、漁師のグループによる海鮮炉端などを育てていきたいと思っている。

(5) 海軍ホラーハウス 2018 <略>

(6) 新規お土産開発、キャラクター33 開発

松井／羊羹に関しては、ラベルの一般公募が形になりつつある。

舞鶴巧芸の「七宝かさね」という京琥珀をお土産館で売っている。東京でも人気があって売れている。これらの開発を進めていきたい。

(7) 「海の京都」無人島サバゲー企画

土田／次年度に向けて準備を進めていきたい。

松井／広域的に PR できるものとして、地元で認識してもらう必要がある。戸島の村長会を立ち上げた。プロに任せる部分はあるが、土地の有効活用について広く知ってもらう必要がある。

先日、バーベキュー協会の方から、ロシア病院のフィールドで行うバーベキュー&肝試しのイベント提案があった。

深瀬／土地の活用について、手続については担当者に伝えている。

松井／フィールドとしてどこがいいのか検討する必要がある。

深瀬／東山は平ら。斜面部分は難しいのではないかと。有料での貸付けについては実績がある。市に管理委託をしている箇所については、貸付けという形にはならないだろう。ハインキングの実績はある。問題になるのは安全の担保ということになる。

(8) 旧マイコム食品スーパー

土田／先日、舞鶴市、タイムズ (マイコム指定管理者)、旬工房、商店街で話し合いをもち、これから検討に入っていくことになった。食品スーパーが欲しいと言うのは地元からも要望が出ているので、具体化に向けて進めていきたい。

(9) ビジネスホテル誘致

土田／スーパーホテルと一緒にどのようにまちづくりを行っていくかという話になっており、グルメマップを地域でつくる予定。地域としては民間の投資を誘発していきたい。すでにいくつかの話も聞いている。9月ぐらいから建設着手の予定とのことなので、五条公園の整備をあわせてやって欲しい。

4. 次回開催について

次回は8月ごろの開催予定。

第3回委員会

日 時：2018年8月24日（金）19:30～21:00

場 所：旧マイコム（5条立体駐車場）

出席者（敬称略）：

（商店街）商店街連盟：伊庭（東商連）、谷川（八島）

MCA：塩見、田口、松井(功)、土田

海軍御用達おみやげ館：松井(久)

（行 政）舞鶴市：竹原（観光商業課）

京都府：江種（商店街創生センター）

近畿財務局：田中

（その他）福知山公立大：杉岡

協働研：片岡（計12人）

配布資料：「海軍ホラーハウス2018」取材内容

「日本経済新聞」2018年8月21日記事（決済電子化で税優遇）

「京都商店街創生フォーラム2018」チラシ

「商店街創生支援プロジェクト事業」第2回委員会議事録

<議事内容>

1. 本年度及び次年度にかけての作戦会議 <略>

2. 京都商店街創生フォーラム2018について

土田／商店街創生センターの主催で9月5日(水) に実施される同フォーラムにて、プレゼンを予定。

3. 事業実施及び進捗状況報告について

(1) 新海軍御用達お土産館アンテナショップ&どこでもギャラリー

にぎわい回復事業&どこでもギャラリー事業

土田／ツイッター等で情報を得て他府県からも来館が増えている。アニメ系コンテンツツーリズムが広がっている影響がある。軍艦通りの等身大キャラクター、オリジナル羊羹などが話題になっており、海軍御用達お土産館を目的に舞鶴を来訪する人も増えている。

松井／ひとりで来館する人が多い。リュックスタイルやバイクでのツーリングなどが中心で、ツイッターなどで報告されている。教育隊の学生が手伝いに来てくれたり、フォロワー同士のふれあいの場にもなりつつある。石原健ペン画作品展を実施しているが、定期的に展示替えしており、リピーターも増えている。

(2) 第7回舞鎮「艦これ」報告

土田／

- ・ 7月22日に舞鶴市立中総合会館にて艦これイベントあり。来場者は約7800人で、約3億円の経済効果があった(1人あたり約4万円)。西日本豪雨災害義援募金として約15万円を寄付した。
- ・ 7月21日に前日ツアーとしてまち歩きを実施した。
- ・ 前夜祭は「浜っこ夜の市」とのコラボで実施。プロジェクトマッピングを行った。250人以上が参加。
- ・ 7月22日のイベントに出店した露店は約300万円の売り上げがあった。地元商店街も支援し、JRから会場までのぼりを立てて歓迎ムードを演出した。
- ・ アンケートを実施したところ、約3分の1が京都府内、つづいて大阪府、兵庫県からの来館となっているが、それ以外は全国から訪れていることが分かった。リピーターも多く、満足度も高かった。

(3) 地域創造計画案、アニソンライブ、舞鶴鎮守府アニメコンテンツ等 <略>

(4) 2018夜の市 <略>

(5) 海軍ホラーハウス2018

土田／

- ・ 6月30日～9月19日、東舞鶴三条敷島だるま堂横にて実施し、2345人を動因した。テーマは「ロシア病院の謎」。
- ・ 夏のイベントとして定着しつつあり、市外からの参加も多かった。

(6) 新規お土産開発、キャラクター33開発 <略>

(7) 「海の京都」無人島サバゲー企画

土田／東山、第3火薬廠跡、戸島が候補。来年春～夏に実施する方向で調整中。ボーイスカウト、八島商店街のサバゲー店等に協力を得る予定。

松井／テレビ番組をつくってもらえるように仕掛けていきたいと考えている。サバゲー協会などにプレイヤーになってもらい、こちらは準備はするのでお金はなるべくかけずにやっていきたい。

杉岡／先日あった大学関係者の合宿で、サバゲー好きの京産大の学生がいた。舞鶴での取り組みがあるならばぜひやりたいとのことだった。他にも興味のある学生はいるだろう。

(8) 旧マイコム食品スーパー

土田／旧マイコムでのスーパー開店は建物構造上の問題などあり出店できないことになった。

松井／スーパー側としては、引きつづき東舞鶴での出店を検討している。

(9) ビジネスホテル誘致

土田／オリンピックの影響で工事費が高騰しており、予算上の問題などあって工事時期が遅れている。京都府の補助金申請など市と協議中。

(10) ふるさとイベント大賞応募の件

松井／

- ・ 舞鶴市から依頼があり、艦これ関連のイベント（「舞鶴鎮守府実行委員会」名義）について「ふるさとイベント大賞」にエントリーすることになった。
- ・ 今後の方向性としては「舞鶴環境リース事業」を考えている。舞鶴の資源を使ってここでイベントを展開してもらおうというもの。艦これイベントもこれにあてはまる。四国で実施しているアニソンライブのようなこともできるのではないか。場所を提供して集客できるイベントをやってもらおうというような形、行政に依存しない仕組みを民間でつくっていききたい。

土田／9月5日のフォーラムの前に、舞鶴出身の京都マンガミュージアム前館長・赤坂氏を交えてアニメコンテンツツーリズムや舞鶴の活性化について協議する予定。

(11) カード事業について

土田／クレジットカードの IC 化が課題になっている。京都クレジットカードサービス（DC カード）と協議したところ、端末の入れ替え等、現行のままの条件で取り組めることになった。京都銀行とも連携の方向を検討中。

4. ディスカッション

土田／商店街創生プロジェクトを3年間やってきたが、来年度以降の財源確保が課題になる。アニメ系コンテンツツーリズムの関連で予算化していきたいと考えている。

杉岡／

- ・ お土産館に男性の固定客がついているというのは昨年まではなかった動き。女将さん効果といえる。
- ・ 「メシテロ」という言葉が出来たように胃袋をつかんだのは強い。
- ・ 男性が集まってきていることに対して次の戦略が必要。現状ではネットでつながっているが、リアルにつながっていく、出会いの場になっていけばいいのではないか。例えば婚活イベントなど。
- ・ 1日でこれだけ経済効果を生むイベントがあるのは大きい。海軍をいかしたまちづくりという視点がブレていないのはすごいこと。これをいかに日常のお金に変えていくのかということに壁がある。
- ・ 課題としては、次のような点がある。
 - ① 行政がどのように既存の動きに乗っかっていくのか。どう連携していくか。
 - ② 市民の理解をどのように得ていくのか。お土産館などを活用して翻訳していく作業が必要だろう。

- ③ 日常への波及効果をどのように生んでいくか。非日常の食コンテンツを日常のコンテンツにするのかも含めて議論する必要がある。

松井／

- ・ 今年はロシア系のメニューが好評だったが、艦これイベントで集まった人には自分たちで開発商品をつくってもらうように言っている。
- ・ 「舞鶴鎮守府食べ歩き」のような冊子を作成したいと考えている。冊子をもって地域内を歩いてもらえるようになるのではないかな。
- ・ 艦これイベントでは、参加者同士の同窓会のような現象が起こっているようだ。田中／コアなファンがリピーターとして訪問してもらえるような状況になっていると感じている。地域貢献できるように、協力していきたい。

塩見／

- ・ スーパーホテルの誘致にあたって市との話し合いの中で、夢のある提案をして欲しいという話題が出た。これまでも色んな提案をしてきたが、なかなか実現していないものも多いという話をした。その上で、9月末をめぐりに改めて提案を出す予定にしている。
- ・ 今の思いとしては、若い人たちが中心になって、まちのことを議論するようになって欲しいと感じている。

第4回委員会

日 時：平成30年10月15日（月） 19：30～

場 所：旧マイコム（5条立体駐車場）

配布資料：全国水源の里シンポジウムチラシ

検討内容：

- (1) 新海軍御用達お土産館アンテナショップ&どこでもギャラリー
- (2) 商店街創生フォーラムについて報告
- (3) マンガミュージアム前館長とのコンテンツツーリズムについての対談について。
地域創造計画案、アニソライブ、舞鶴鎮守府アニメコンテンツ等
- (4) 2018 はまっこだるま祭り+プレミアムディスコナイト事業
- (5) 新規お土産開発、キャラクター33 開発
- (6) 「海の京都」無人島サバゲー企画
- (7) 旧マイコム食品スーパー
- (8) ビジネスホテル誘致
- (9) ふるさとイベント大賞応募の件
- (10) まちづくり会社設立にむけて

第5回委員会

日 時：平成30年11月28日（水） 19：30～

場 所：旧マイコム（5条立体駐車場）

配布資料：田辺城武家祭(仮称)企画案

検討内容：

- （1）新海軍御用達お土産館アンテナショップ&どこでもギャラリー
- （2）次回「艦コレ」について。コンテンツツーリズムについての思案。地域創造計画案、アニソンライブ、舞鶴鎮守府アニメコンテンツ等
- （3）2018はまっこだるま祭り+プレミアムディスコナイト事業報告
- （4）新規お土産開発、キャラクター33開発
- （5）「海の京都」無人島サバゲー企画
- （6）旧マイコム食品スーパー
- （7）ビジネスホテル誘致
- （8）ふるさとイベント大賞応募の件
- （9）まちづくり会社設立にむけて

第6回委員会

日 時：2019年2月20日（水）19:30～20:30

場 所：八島商店街2階会議室（八島産直マーケット2階会議室）

配布資料：海軍御用達お土産館事業について
艦これ同人イベントについて

<議事内容>

1. 自己紹介<略>

2. 事業実施及び進捗状況報告について

- (1) 新海軍御用達お土産館アンテナショップ&どこでもギャラリー
- (2) 「艦これ」について。コンテンツツーリズムについての思案。地域創造計画案、アニソンライブ、舞鶴鎮守府アニメコンテンツ等
- (3) 新規お土産開発、キャラクター33 開発

土田／

○海軍御用達お土産事業について

- ・ 昨年度から NPO 法人 MCA が主体になって運営してきたが、経営継続のための安定財源の確保が課題になっている。
- ・ 来年度は、京都府「テーマ設定型事業」を活用して、東商連が主体となって継続する予定。

○艦これ同人イベントについて

- ・ なぐも。(漫画家)さんに、オリジナルキャラクターを作成してもらった。
- ・ 前夜祭(2/9)は、過去最高の650人、当日(2/10)は12,000人の参加者。売店売上が450万円など。JRが臨時電車を出した。

松井／「六六艦隊計画」に基づいてネーミングされた海軍通りのキャラクターをなぐもさんに作成してもらった。今回は4キャラクターのみだったが、これから増やしていく予定。舞鶴の観光ポスターや、お土産品(トートバック等)として活用していきたいと思っている。

- ・ 前夜祭と同日に実施された海上自衛隊の演奏会にチケットを分けてもらい、艦これ参加者に配布したり、ソロモン諸島に沈んでいた駆逐艦「きくづき」の砲身を会場に展示したりした。

- ・ アンケートを実施したところ、参加者の1割が地元で、9割が他地域からだった。

土田／「艦これ」ファンから派生して舞鶴のファンが増えているので、キャラクターをうまく活用していきたい。

松井(久)／お土産館での売上については、前年比で倍増した。

(4)「海の京都」無人島サバゲー企画

○舞鶴高専からの報告

- ・ 2018年「全国高等専門学校デザインコンペティション」全国大会で、優秀賞を受賞した内容についての報告。
- ・ 戸島を活用したサバイバルゲーム。コンセプトは「サバイバルゲームを用いて、活気ある戸島、舞鶴市を取り戻す」。戦時中は海軍関連の歴史があり、戦後は払下げによって地域の人々のレクリエーションの場ともなっていた。それらの記憶の元に、活気を取り戻せないかと考えた。
- ・ サバイバルゲームの一般的な問題点としては、近隣地区の住民から苦情があるが、戸島が離島であることからそれらを回避することができる。またここでしか味わえない貴重な体験ができるのではないだろうか。
- ・ ゲーム好きの高専生へのアンケート調査によると、サバイバルゲームに興味はあるが経験者は少ない。一方、ビデオシューティングの経験者は多い。このことから、サバイバルゲーム未経験者が参加しやすい環境整備が必要であるといえる。
- ・ 活用プロセスとしては…
 - Step 1：戸島をサバイバルゲーム施設にする
 - Step 2：ゲーム好きな若者がゲームに新規参入しやすい環境整備をする
 - Step 3：サバイバルゲームを通して自然の中で運動する楽しさを知ったり、海軍の歴史に触れることで舞鶴の良さを感じることができる
 - Step 4：若者が中心となり身体を動かしゲームを楽しみながら歴史を見つめ直すことができる施設として戸島の復活を目ざす。そして若者が中心となって市を盛り上げていく
- ・ 新規参入しやすい要素としては、バドルロワイヤル方式を採用することで、1人当たりの参加費用をおさえることができるのではないか。
- ・ 運営サイトの開設やSNSなどを活用して情報発信をしていく。
- ・ 退役自衛官と交流戦をしてみてもいいのではないか。また、市内の学校や民間チームと定期的に交流戦を実施することで地域コミュニティを創出することができる。
- ・ 高専生の関わりとしては、オブジェクトの設計・作成、予約サイト等アプリケーションの開発、ゲーム好きの高専生の参加による地域との交流の創出などが考えられる。

○主な意見

尾上／同作品は「舞鶴市優秀文化賞」も受賞することとなった。他の高専の報告の中では、伝統的なものを活用するか、これまで扱われなかったようなものに注目するか、極端なものが注目を集めていた。本作品は後者にあたる。

杉岡／体験型のエンタメ観光資源として活用できるだろう。プラスして食を組み合わせればいいのではないか。

松井(久)／サバゲーをやっている人たちの意見を聞いたら、キャンプができたらもっといいのではないかと言っていた。

土田／戸島へは西・中・東舞鶴から3ルートあるので、それぞれと協力してやっていくことができるだろう。

松井／「艦これ」以外でも、コスプレやアニソン等のイベントを実施したいとの声がある。それらの業者に場所貸ししてあげばいいだろう。地元ではそれをサポートしてあげばいいのではないか。

田口／舞鶴は他地域より歓迎ムードが高いようだ。赤れんがパークや海軍の跡地などの場の魅力もある。イベントの企画会社としては、東京ではない場所を求めている。

田中／戸島は、現在は京都府自然公園となっている。行政としてどのように整備していくのがいいのか、検討していく必要があるだろう。

(5) 旧マイコム食品スーパー

土田／この間の進展はないが、地元からのニーズは高いので、引きつづき検討していきたい。

(6) ビジネスホテル誘致

土田／3月31日に着工する予定。

(7) キャッシュレス（QRコード決済）について

土田／25日に京都府、舞鶴市、京都銀行、商工会議所、TASK 他で勉強会を実施する予定。この間18年にわたって包括事業者として地域のクレジット利用率を下げる努力をし、地域の活性化に寄与してきた。その中で手数料を下げろといわれて混乱している事業者も多い。経済産業省からの情報によると現時点ではキャッシュレスを進めること、クレジットの利用率を上げることのみで、全国の同種の事業者について言及されていない。QRコード決済については、標準化も進んでいない。まずは勉強会を行う中で、課題の整理をしていきたい。

なお、商工会議所では、3月末に市内中小企業者向けに説明会を実施する予定にしている。

(8) 次年度体制

土田／本事業は今年度で終了予定。来月以降でフォーラムを開催し、高専生のレポートを広く聞いてもらった上で、この間の動きを検証したいと思っている。また、「艦これ」の際に福知山公立大でとってもらったアンケートの結果も報告して欲しい。

会議については、来年度以降も継続して開催していきたい。

杉岡／本事業の成果として、次のことが言えるのではないか。ひとつ目は、舞鶴の内外で「偏人×変人」ということが起こった。ふたつ目は、舞鶴自体が「聖地化」された。それに伴って戸島を始めとする場が「整地」されてきた。みつつ目は、最先端の組織として注目されている「Teal型組織」の様な状況が舞鶴で起こっている。

課題としては、市民への理解、日常性とのつながり、行政との連携などがあるだろう。引きつづきこれまでの蓄積を深めていく議論を進めていくべきだろう。

(9) その他

松井／近年、西舞鶴で若者を中心とした活動が展開されている。こうした動きを受けて、舞鶴市の若手職員から、東舞鶴でも同様の動きが盛り上がるようにお土産館を利用したいとの話があった。しかしこの間、お土産館は別路線で動き始めているので、実業会館を活用できないかとの提案をした。

土田／空き店舗対策についても、家賃補助から初期投資に対する補助に変わってきた。対象者も他地域からの参入も誘導できるように変わっていけばいいと思っている。

平成 30 年度 商店街創生支援プロジェクト事業業務（協同組合東舞鶴商店街連盟）報告書
平成 31（2019）年 3 月

特定非営利活動法人 MCA